

OMRON

VIAGGIO

ヴィアッジョ

OMRON

取扱説明書

FAX/DATA USBモデム

ME5614U2

ME5614U2

取扱説明書



●はじめに

この度は、オムロンボックスモデム ME5614U2をお買い上げ戴き、誠に有り難うございます。本モデムを使用して、パソコン同士やパソコンとFAXの間で、文字や画像情報の交換などのいろいろな通信をお楽しみください。

本モデムは、ITU-TのV.90に対応し、最高速度56000bps(33600bps以上は受信のみ)までの通信速度で通信することができます。

本取扱説明書では、ME5614U2の取扱方法や、注意事項を説明していますのでお使いになる前に必ずお読みになり、十分に理解してください。

また、必要な人が何時でも見ることができるよう、本モデムの近くに置いてご使用ください。

◇取扱説明書の読み方

最初に、「安全上のご注意」と「環境上のお願ひ」について記載していますので、全ての方にお読みいただき、正しくご使用ください。

最初に本取扱説明書を読んで、ME5614U2の使い方を理解してください。

初心者の方は最初から順番にお読みください。

経験者の方は「安全上のご注意」「環境上のお願ひ」「準備する」「セットアップをする」の章は、必ずお読みください。その他の章は必要によりお読みください。

- 「安全上のご注意」「環境上のお願ひ」では、ご使用いただく上での、安全上の注意事項や廃棄する上でのお願ひが書かれていますのでME5614U2を使用される方は全員お読みください。
- 「何から始めればいいのか?」では、インターネットやFAX通信を始めるまでの手順を示しています。
- 「準備する」では、開梱等の方法や、モデムとパソコンの接続方法について記載しています。
- 「セットアップをする」では、Windows®の場合について、ドライバのインストールとインターネットへのアクセス方法について記載しています。
- その他に「ATコマンド」や「仕様」、初心者の方のために「お困りのときには」「用語の解説」等を記載しています。
- 本取扱説明書をご理解いただければ、ホームページの閲覧及びFAXの送受信等ができるようになります。インターネットやパソコン通信は他にもいろいろな楽しみ方があります。市販されている書籍等をご活用いただければ幸いです。

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

● 安全上のご注意

⚠ 注意

誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。物的損害とは、家屋、家財および家畜、ペットに関わる拡大損害を示します。



：禁止（してはいけないこと）を示します。



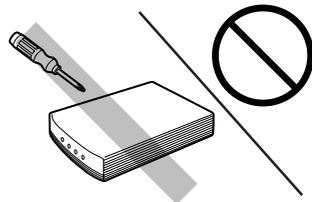
：強制（必ずしなければならないこと）を示します。例えば ⚡ はアースの実施が必要であることを意味します。

なお、注意、禁止に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性もあります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

⚠ 注意

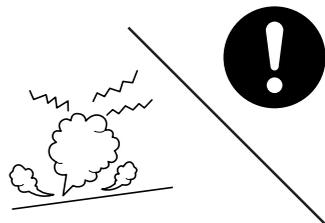
モデムのカバーは絶対に、開けたり、分解や改造をしたりしないこと

- モデム内部の電圧の高い部分によって、感電のおそれがあります。



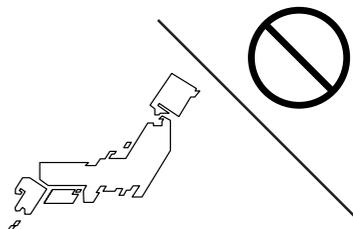
本モデムから異臭、異音、煙が発生したときは、パソコンとモデムの USB ケーブルを抜くこと

- 火災の原因になるおそれがあります。



本モデムは日本国以外で使用しないこと

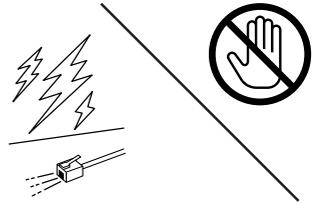
- 本モデムの仕様は日本国内向けになっており、海外での許認可等は受けておりませんので、海外ではご使用いただけません。
- 海外で使用されますと、電圧、使用環境が異なり、本モデムの破損、発煙、発火のおそれがあります。
- This modem can be used Japan only and can not be used any other country.



安全上のご注意

雷が発生した場合は、電話線のケーブルには手をふれないこと

- 感電の恐れがあります。

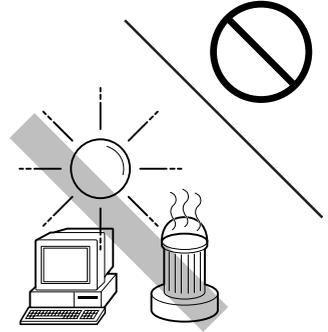


この取扱説明書に記載されている周囲環境条件から外れた使用、保管は絶対しないこと

- 本モデムの故障、破損などによって、発煙、発火のおそれがあります。

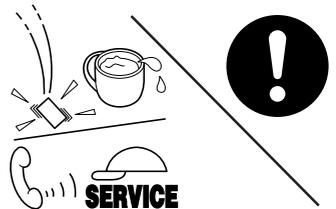
下記の環境には特にご注意ください。

- ・自動車内等の直射日光の当たる場所
- ・高温下や発熱する器具の近く
- ・極端に湿度の高い場所
- ・埃の多い場所
- ・油煙の当たる場所
- ・衝撃を受けたり振動が加わるような不安定な場所
- ・ラジオやテレビジョンなどのすぐ近く
- ・水などがかかりやすい場所



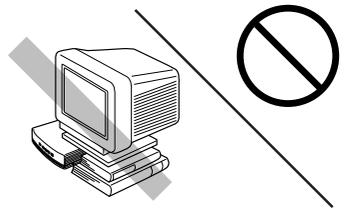
下記のような事故が発生したら使用を中止し、必ず修理、点検を依頼すること

- そのまま使用されると、重大事故が発生するおそれがあります。
 - ・60cm以上の高さから落下させてしまったとき
 - ・水やコーヒーなどの液体をかけてしまったとき



モデムを逆さまに設置したり、上に重いものを乗せないこと

- モデムの故障、破損などによって、発煙、発火のおそれがあります。



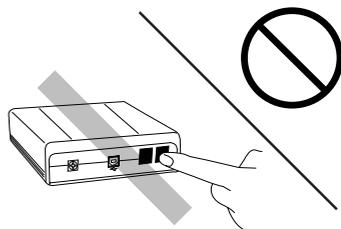
本モデムの通風孔をふさいだり、重ね置きをしないこと

- 内部に熱がこもり、誤動作ややけど、火災のおそれがあります。



安全上のご注意

感電防止のためモジュラジャック（LINE、PHONE）に指を入れないこと



！強制

モデム本体のFG端子（アース端子）を使って必ず設置してください。
落雷時の影響（破損、焼損等）を軽減したり、ノイズ（電氣的雑音）の影響を軽減します。

留意事項

本モデムの用途について

- 本モデムは、パソコンなどのOA機器に使用することを目的に設計・製造されています。医療機器や幹線通信機器、電算機システムなどの極めて高い安全性、信頼性が要求される用途には使用しないでください。

雷による障害について

- 本モデムは、雷などにより発生し、電話回線から入り込むサージ電圧（瞬間的な電圧異常）から本機を保護する回路を内蔵しておりますが、より高い保護効果をお望みの場合は、パソコンショップ等で市販されている雷サージ保護装置を併用されることをお勧めいたします。
なお、当社のバックアップ電源は上記の雷サージ保護装置を内蔵しておりますので、ご使用いただきますと停電対策及び雷サージ対策の双方に効果を発揮します。
ただし、雷サージ保護装置や当社のバックアップ電源をご使用の場合でも、雷の状況によってはモデムの故障などの障害が発生する場合があります。
近くで雷が発生した場合は、雷が収まった後に、本機が正常に動作するか確認されることをおすすめします。
万一の故障の場合は、当社周辺機器修理センター（TEL: 03-3436-7213）が修理を承っております。
なお、雷などの天災による故障の場合は、保証期間内であっても有償修理となりますのでご承知ください。

本モデムの故障・誤作動、停電あるいは天災等によって本モデムが使用できなくなった場合、それに生じる損害（通信等上生じる機会損失等）に対しては、当社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

本モデムは、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本モデムは、家庭環境で使用することを目的としていますが、本モデムがラジオ、テレビジョン受信機に接近して使用されると受信障害を引き起こすことがあります。受信障害が発生した場合は、本モデムをラジオ、テレビジョン受信機から離してご使用ください。

本モデムは法律(輸出貿易管理令、外国為替令)の規制の対象となります。本モデムを海外に持ち出される(輸出)場合は、当社カスタマサポートセンタ(TEL: ☎ 0120-77-4717)にお問い合わせください。お問い合わせの際、本モデムの製造番号が必要です。製造番号は、本製品底面に貼付のシールに記載しております。

初めて本モデムをお使いになるときは、不揮発メモリーの内容が失われている可能性があります。お使いになる前に、本モデムの初期化の操作を行ってください。初期化の方法はP70「◇モデムの動作を確認する」をご覧ください。

長期間無人で使用する場合は、正しく動作していることを必ず定期的に確認してください。

本モデムを拭く場合、揮発性の有機溶剤や薬品、化学雑巾などで拭くと変形や変色する恐れがありますので、石鹼水等で良く絞った布で拭いてください。

キャッチホンの回線で本モデムを使用されますと、割り込みの呼出音によってデータが乱れたり回線が切断されることがあります。なるべくキャッチホンの契約をしていない回線でご使用ください。

本モデムはNTTの電話回線と電気的条件が異なる通信回線では、使用できません。(ボタン電話、キーテレホン、ホームキーテレホン、家庭用キーテレホン等)
一般の家庭用の電話回線(ダイヤル式やプッシュ式電話)は、そのまま接続できます。接続する前に電話装置メーカーや保守業者に、ご相談ください。

本モデムはNTTの電話回線と電気的条件が異なる通信回線では、使用できません。(ボタン電話、キーテレホン、ホームキーテレホン、家庭用キーテレホン等)
一般の家庭用の電話回線(ダイヤル式やプッシュ式電話)は、そのまま接続できます。接続する前に電話装置メーカーや保守業者に、ご相談ください。

本モデムはPBX内線に直接接続して使用する場合、回線の電気的条件がNTTの電話回線と同じでなければ動作しません。本モデムは、極性反転がない回線にも接続できるように設計されていますが、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンやビジートーンなどについては、NTTの仕様準拠しています。従ってこれらの仕様がNTT回線と極端に異なる場合には、これらの信号を認識できないことがあります。詳しくは、PBXの製造メーカーや保守業者に問い合わせてください。

送出レベルの設定方法

ATS91=n (10～15) でデータ通信の送出レベルを変更することができます。n=11にした時、送出レベルは-11dBm、n=15にした時、送出レベルは-15dBmに設定されます。初期値はn=15です。

ATS92=n (10～15) でFAX通信の送出レベルを変更することができます。n=11にした時、送出レベルは-11dBm、n=15にした時、送出レベルは-15dBmに設定されます。初期値はn=15です。

変更するレジスタ	S91 (データ通信)	S92 (FAX通信)
初期値	15 (-15dBm)	15 (-15dBm)
最大値	10 (-10dBm)	10 (-10dBm)
最小値	15 (-15dBm)	15 (-15dBm)

安全上のご注意／環境上のおお願い

付属のソフトウェアは下記にご留意いただき、ご使用願います。

- 万が一の事故に備えて、バックアップコピーをしておいてください。
 - 本ソフトウェアは日本国著作権法により、お買いあげ戴いた方のみに使用を許諾するものです。
 - 第3者に譲渡はできませんが、上記の条件に同意戴いた方のみに、使用の許諾をするものです。
 - 本ソフトウェアの最新性、使用したときの成果の的確性、正確性、信頼性等に関する保証はしません。成果や機能についてのリスクは全て購入者(使用者)が負担していただくことになります。
-

付属の CD-ROM は下記を守って使用すること。

- 表面に傷をつけない
 - 読み取り面を触らない
 - 折り曲げない
 - 高湿、高熱、直射日光、埃のなかで保管しない
-

取扱説明書については、以下の点にご留意ください。

- 本取扱説明書の内容の一部または全部を、無断で転載することを禁止します。
 - 本取扱説明書の内容に関しては、将来予告なしに変更される場合があります。
 - 本取扱説明書の内容については、万全を期して作成いたしました。万が一不審な点やご不明な点、誤り、記載漏れ、乱丁、落丁、その他お気づきの点がございましたら、当社までご連絡ください。
 - 本取扱説明書内で指示されている内容には、必ず従ってください。
 - 本取扱説明書の瑕疵(誤記等)により発生した障害、損害についての保証の範囲は本製品の修理、交換、または同等機能の製品との代替交換に限ります。
-

通信中にパソコンの電源が切れたり、モジュラケーブルを外したりすると通信ができなくなったり、データが壊れたりします。

- 重要なデータは元データと照合してください。
 - 送信先番号を間違えると、目的のところへ送信されません、良く確認して送信してください。
 - 通信中に停電や、パソコンの入力電圧が瞬間的に低くなったり、パソコンの電源が切れたりするような場合でも正常な動作を確保したい場合は、弊社製品の無停電電源装置 (BU/BX シリーズ) をパソコンに接続してご使用されることをお薦めいたします。
-

地球環境負荷を減らすために以下のことにご協力ください

本製品および付属品は不燃物として処分してください。

- 廃棄方法は、各居住地区で定められている分別および収集方法に従ってください。
- 家庭で一般ゴミとして焼却すると、ダイオキシンや塩化水素ガス等が発生して環境や体に悪影響を与えます。

●この取扱説明書について

◇表記について

- 本取扱説明書では、以下使用している記号
 -  エンターキー（リターンキー）
 -  キー
- 留意事項 使用上の留意事項

◇画面表示について

表示画面は、操作説明の一例として掲載しているものです。
お客様のパソコン画面に表示される画面とは異なる場合もあります。
あらかじめご了承ください。

◇商標について

Microsoft®、Windows®、Windows NT® は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Apple、Macintosh、Mac OSは、米国 Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、本取扱説明書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

● 目次

はじめに	1
安全上のご注意	2
環境上のご願い	6
この取扱説明書について	7
目次	8
何から始めればいいのか?	10
準備する	12
■動作可能なパソコンを確認する	12
■付属品を確認する	12
■各部の名称とはたらきを確認する	13
■電話回線の種類を確認する	14
■電話回線を接続する	14
●本モデムと電話回線の接続図	15
ドライバーをインストールする ...Windows®Server™2003/XP/2000	16
《Windows®Server™2003/XPの場合》	17
《Windows®2000の場合》	20
《接続を確認する》	22
インターネットへ接続する ...Windows®Server™2003/XP/2000 ...	22
◇プロバイダ情報やソフトウェアを用意する	22
●プロバイダ情報	22
●インターネット接続ソフトウェア	22
◇STEP1 ネットワークプロトコル(TCP/IP)をインストールする	23
◇STEP2 ダイアルアップネットワークを設定する	26
◇STEP3 インターネットへ接続する	32
FAX を送る	35
ドライバーをインストールする ...Windows®Me/98SE	38
《Windows®Meの場合》	39
《Windows®98SEの場合》	42
《接続を確認する》	46

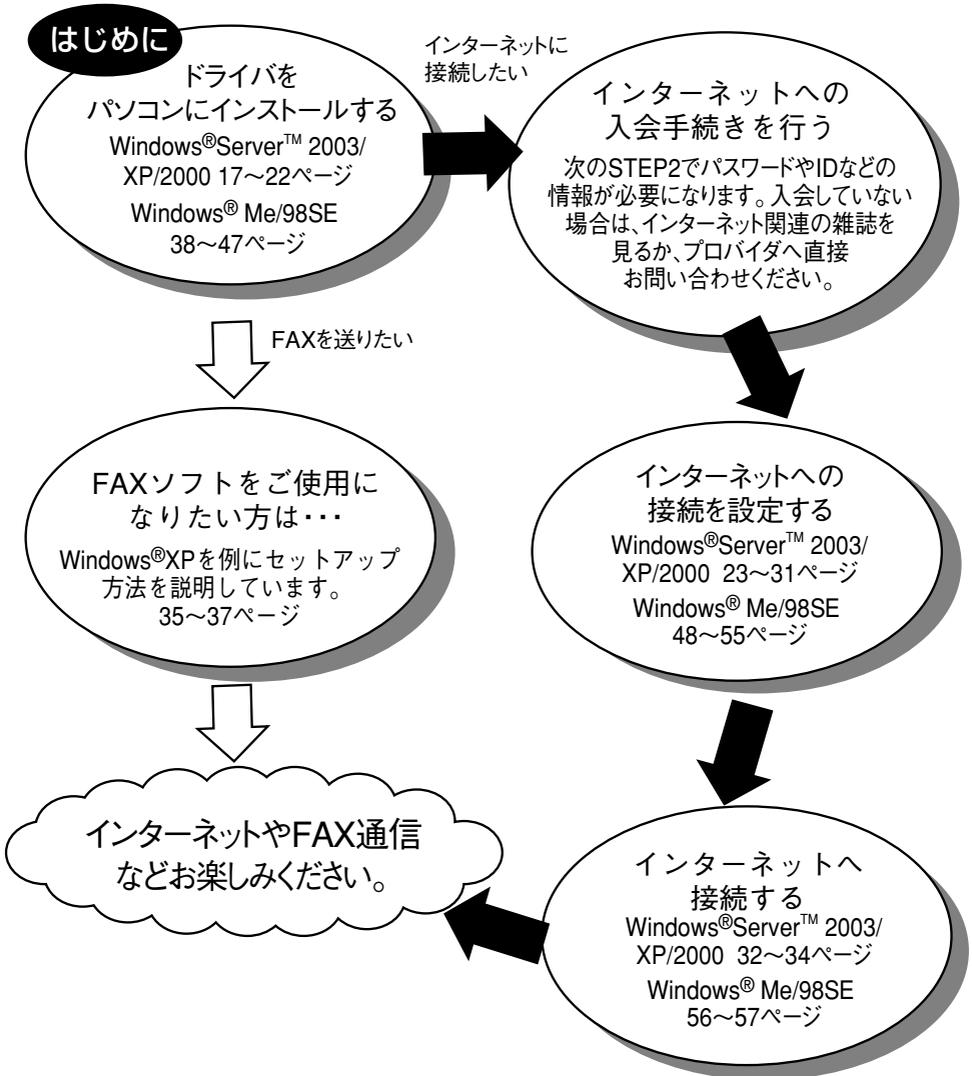
インターネットへ接続する ...Windows®Me/98SE	47
◇プロバイダ情報やソフトウェアを用意する	47
●プロバイダ情報	47
●インターネット接続ソフトウェア	47
◇STEP1 ネットワークプロトコル (TCP/IP)をインストールする	48
◇STEP2 ダイアルアップ ネットワークを設定する	52
◇STEP3 インターネットへ接続する	56
ATコマンドの基本	58
■ATコマンドとは	58
■データフォーマットの自動認識	58
■コマンドリスト	59
●ATコマンド	59
●リザルトコード	64
●Sレジスタ	67
お困りのときには	68
◇モデムの動作を確認する	73
◇ドライバの削除方法	75
《Windows®Server™2003/XP/2000の場合》	75
《Windows®Me/98SEの場合》	76
用語の解説	77
■通信ソフトマニュアル、パソコン通信局 (BBS) の用語説明	77
■仕様書、カタログの用語の説明	78
■データ通信、FAXモデムの基礎知識	81
●データ通信の基礎知識	81
●FAXモデムの基礎知識	83
付録	84
■仕様	84
●NCU仕様	84
●データ仕様	84
●FAX仕様	85
●一般仕様	85
■外観寸法図	86
修理のご案内	87
■修理依頼票 ME5614U2	88
お問い合わせ票	89

何から始め

準備する

- 動作可能パソコンや梱包内容、各部の名称を確認する …… 12～13ページ
- 使用している電話回線の種類を確認する「トーン」？「パルス」？ …… 14ページ
- モデムを、電話回線へ接続する …… 14～15ページ
- どんなソフトウェアや情報が必要か確認する
Windows® Server™ 2003/XP/2000 …… 22ページ
Windows® Me/98SE …… 47ページ

ればいいのか？



準備する

● 準備する

インターネットやFAX通信を利用するためには、パソコン、モデム、モジュラケーブル、ソフトウェア(ブラウザ、FAXソフト)およびプロバイダから入手したIDやパスワード等のプロバイダ情報が必要です。

ここでは、梱包内容の確認からモデム各部の名称、接続方法について説明しています。必要なソフトウェアやプロバイダ情報については、P22 (Windows® Server™ 2003/XP/2000)、P47 (Windows® Me/98SE)をご覧ください。

■ 動作可能なパソコンを確認する

オムロンボックス型USBモデムME5614U2は、USBポートを搭載したPC/AT互換機でご利用になれます。

対応OSは、以下の通りです。

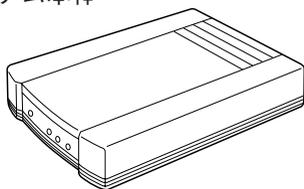
Windows® Server™ 2003/XP/2000/Me/98SE

* Windows® 98/95/Windows NT® および Mac OS ではご利用になれません。

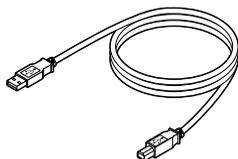
■ 開梱し付属品を確認する

梱包箱を開けて付属品がすべて揃っているか、外観に損傷はないか確認してください。万が一不良品その他お気づきの点がございましたら、すぐに販売店へご連絡ください。

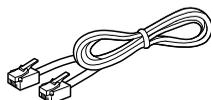
- モデム本体



- USBケーブル(1.5m)



- モジュラケーブル(3m)



- CD-ROM 1枚



- 取扱説明書
- 保証書／ご愛用登録カード

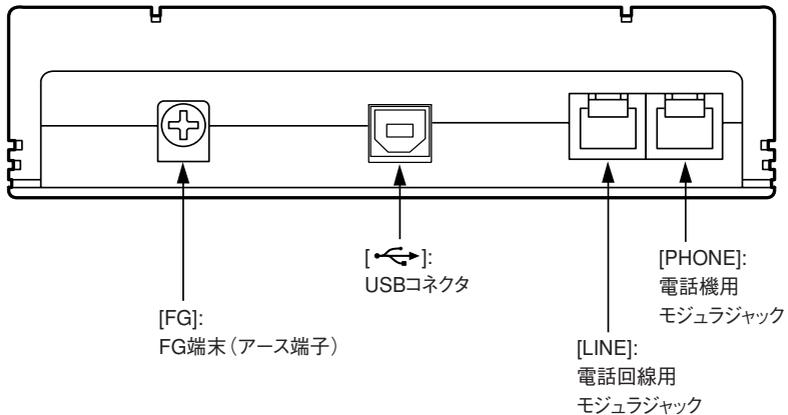
■各部の名称とはたらきを確認する

●正面図



- PW(電源) : USBケーブルでパソコンと接続し、ドライバのインストールが完了していると点灯
- OH(オフフック) : オフフック(受話器を上げた状態)時に点灯
- CD(キャリア検出) : 相手モデムからのキャリア検出時に点灯
AT&C0設定時は常時点灯
- DA(データ) : データ送信中に点灯

●背面図



準備する

■電話回線の種類を確認する

電話回線にはトーン(プッシュ)式とパルス(ダイヤル)式があります。

ご使用の電話回線がどちらなのかを確認するには、実際に時報(117)に電話してみ、受話器から聞こえる音によって確認できます。

●117に電話して受話器から

ピッポッパツと電子音がするときはトーン(プッシュ)式です。

カチッカチツと機械音がするときはパルス(ダイヤル)式です。

●パルス(ダイヤル)式の電話機はダイヤル速度を切替えられるようになっています。

電話機の裏面または側面に10ppsと20ppsの切替えスイッチがついています。

そのスイッチを切替えてカチッカチツという音が速くなる方が20ppsです。

留意事項

●ppsとは1秒間に何パルスの信号を送るかという単位です。

●通信ソフトの中で、電話回線の種類がトーンかパルスかを設定するようになっています。この設定が電話回線と異なると通信できません。パルス式の10ppsと20ppsの設定は通信ソフトが10ppsで電話回線が20ppsとなっても通信できます。良くわからないときは10ppsを選んでいただくと通信できます。

■電話回線を接続する

以下の手順で本モデムと電話回線を接続します。

1 電話回線への接続

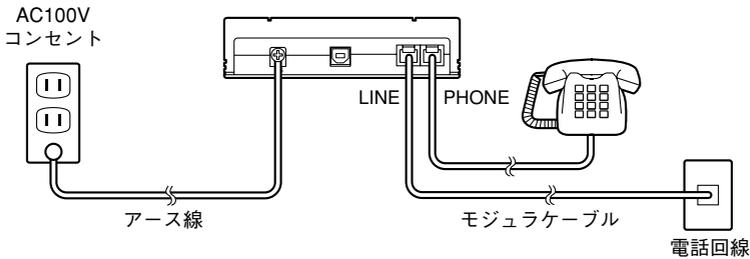
付属のモジュラケーブルで本モデムのLINEと電話回線モジュラーjackを接続してください。電話機を接続する際は、PHONEと電話機を接続してください。

留意事項

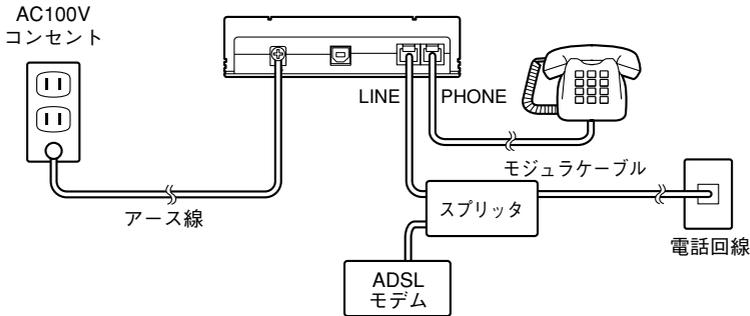
電話機をお使いにならないときは、電話機は接続しなくてもかまいません。

2 アース端子(本モデムのFG)と近くのアース端子を2mm²以上の電線で接続してください。

●本モデムと電話回線の接続図



●ADSL 回線使用時の本モデムの接続図



注意事項

- 本モデムはNTTの電話回線と電気的條件が異なる通信回線では、使用できません。(ボタン電話、ビジネスホン、キーテレホン、ホームキーテレホン、家庭用キーテレホン等)一般の家庭用の電話回線(ダイヤル式やプッシュ式電話)は、そのまま接続できます。接続する前に電話装置メーカーや保守業者に、ご相談ください。
- 本モデムはPBX内線で使う場合、回線の電気的條件がNTTの2線式の電話回線と同じでなければ動作しません。本モデムは、極性反転がない回線にも接続できるように設計されていますが、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンやビジートーンなどについては、NTTの仕様に準拠しています。従ってこれらの仕様がNTTの2線式回線と極端に異なる場合には、これらの信号を認識できないことがあります。詳しくは、PBXの製造メーカーや保守業者に問い合わせてください。
- PHONE端子に接続した電話機を使用中にモデムを使用すると、通話が乱れることがあります。また、モデムを使用中にPHONE端子に接続した電話機を使用すると、通信が切断されることがあります。

ドライバをインストールする (Windows® Server™2003/XP/2000)

●ドライバをインストールする (Windows® Server™2003/XP/2000)

本モデムのドライバは添付CD-ROMに入っています。添付CD-ROMからインストールしてください。ドライバのインストールが済むと電話回線で使用することができます。

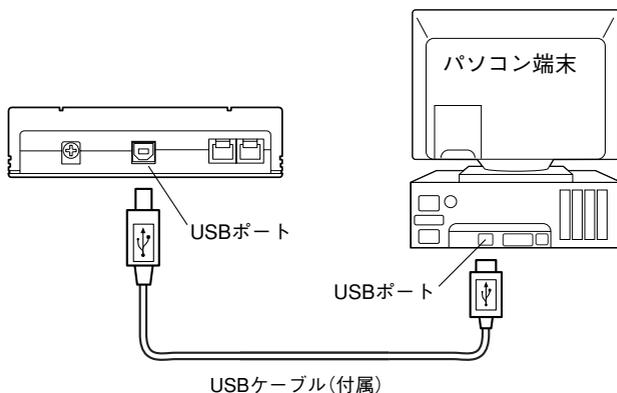
留意事項

- パソコンやシステムの状態によっては、インストールの手順や画面の表示が異なることがあります。その場合は画面の指示に従ってください。

《Windows® Server™2003/XPの場合》

Windows®2000をお使いの場合は、P19～20をご覧ください。

- 1 パソコンの電源を入れた状態で、付属のUSBケーブルでパソコンのUSBポートと本モデムを接続してください。
パソコンの種類によってUSBポートの位置が異なります。

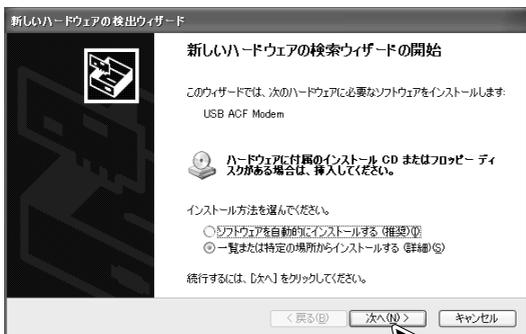


留意事項

- 市販のUSBケーブルをお使いの場合は、5m以内のUSBケーブルをお使いください。

- 2 「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示されます。
「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」にチェックし、添付のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入してください。
「次へ」をクリックしてください。

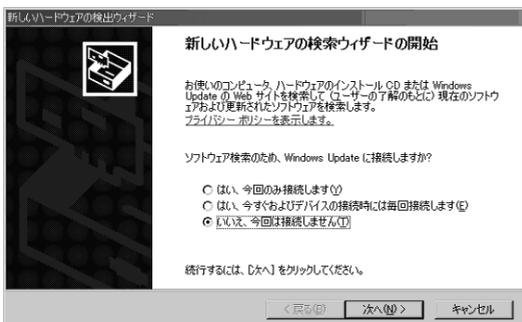
ドライバをインストールする (Windows® Server™2003/XP/2000)



<Windows® XP SP2 (ServicePack2)の場合>

Windows® XP SP2の場合は下記画面が出る場合がございます。

「いいえ、今回は接続しません (t)」にチェックし、「次へ」をクリックしてください。



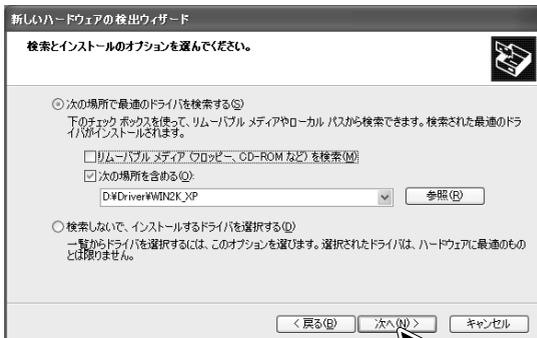
3

「リムーバブルメディア (フロッピー、CD-ROM) などを検索」にチェックマークが入っていたら外してください。

「次の場所を含める」にチェックマークをつけてください。

「D: ¥Driver¥WIN2K_XP」と入力し、「次へ」をクリックしてください。

(D: ¥は CD-ROM ドライブです。ご使用のパソコンによって異なります。)



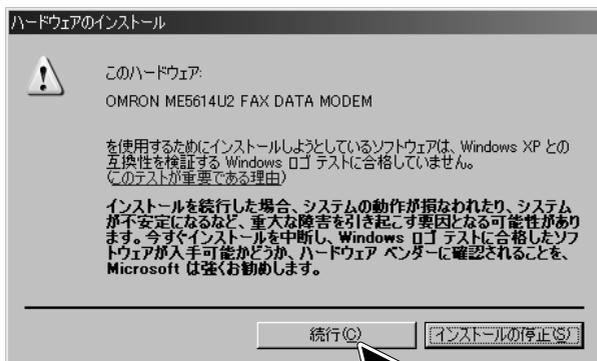
CD-ROMドライブがわからない
→P72 Q16参照

ドライバをインストールする (Windows® Server™2003/XP/2000)

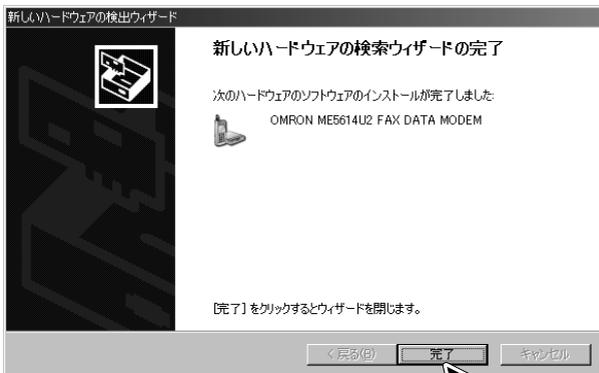
4 ドライバが読み込まれ、インストールが開始されます。



5 下の画面が表示されますが、「続行 (C)」をクリックしてインストールを続けてください。



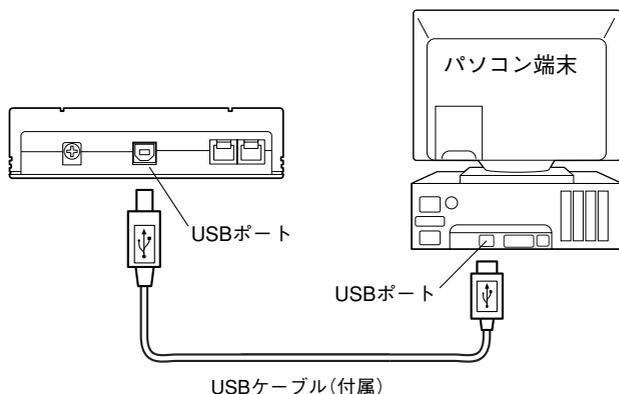
6 「完了」をクリックしてください。以上でインストールが完了しました。



P21 《接続を確認する》へ進んでください。

《Windows® 2000の場合》

- 1 パソコンの電源を入れた状態で、付属のUSBケーブルでパソコンのUSBポートと本モデムを接続してください。
パソコンの種類によってUSBポートの位置が異なります。



注意事項

- 市販のUSBケーブルをお使いの場合は、5m以内のUSBケーブルをお使いください。

- 2 「新しいハードウェアの検索ウィザード」画面が表示されます。
添付のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入して、「次へ」をクリックしてください。
- 3 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面で「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」にチェックを入れて「次へ」をクリックしてください。
- 4 「ハードウェアの種類」で「モデム」をクリックしてください。「次へ」をクリックしてください。
- 5 「新しいモデムのインストール」画面で「ディスク使用」をクリックしてください。

ドライバをインストールする (Windows® Server™2003/XP/2000)

- 6** 「フロッピーディスクからインストール」画面の「参照」をクリックしてください。以下の画面で「ファイルの場所」から「ME5614U2 (D:)」(CD-ROMドライブ)→「Driver」→「WIN2K_XP」の順にダブルクリックし、「ファイル名」欄に「ACFUSBvK」が表示されていることを確認し、「開く」をクリックしてください。(D: は、ご使用のパソコンによって異なります。)



- 7** 「フロッピーディスクからインストール」画面に戻りますので、「製造元のファイルのコピー元」に「D:¥Driver¥WIN2K_XP」と表示されたことを確認し、「OK」をクリックしてください。
- 8** 「モデル」欄の「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」をクリックし、「次へ」をクリックしてください。
- 9** 「デバイスドライバのインストール開始」画面で「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックしてください。
- 10** 「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
- 11** 「新しいハードウェアの検索ウィザード」画面が表示されたら「完了」をクリックしてください。以上でインストールが完了しました。

次頁の《接続を確認する》へ進んでください。

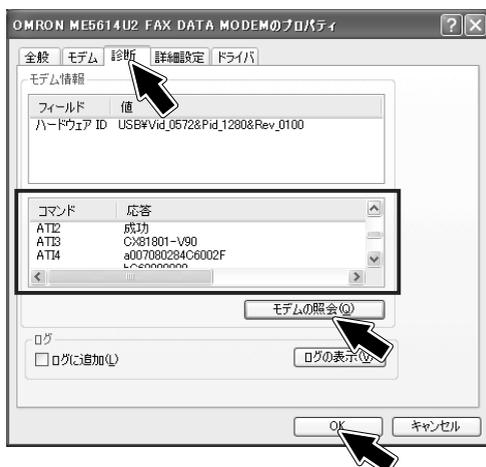
《接続を確認する》

- 1** 「スタート」(Windows®2000の場合は、「スタート」→「設定」)→「コントロールパネル」→「電話とモデムのオプション」のアイコンをダブルクリックし、「モデム」タブをクリックしてください。
「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」が表示されているポートをクリックして「プロパティ」をクリックしてください。



初めの場合、所在地情報を入力する必要があります。
ダイヤル元の市外局番を入力して「OK」をクリックしてください。

- 2** 「診断」タブをクリックし、「モデムの照会」をクリックしてください。「コマンド」、「応答」欄に文字が表示されましたら接続は完了です。「OK」をクリックして、Windows®XP/2000のデスクトップに戻ってください。



これでドライバのインストール及びモデムとパソコンの接続の確認が完了しました。

●インターネットへ接続する (Windows®Server™2003/XP/2000)

◆STEP1 プロバイダ情報やソフトウェアを用意する

●プロバイダ情報

インターネットに接続するには、加入されたプロバイダから与えられた次の情報が必要です。設定の際に必要なになりますのでお手元に置いておいてください。

- ① ドメイン・ネーム (例：XXX.XXXXXX.or.jp)
- ② ドメイン・ネーム・サーバーIPアドレス (例：123.123.78.90)
- ③ 接続アカウント (例：umw11122)
- ④ 接続パスワード (例：DdcjHbkk)
- ⑤ アクセスポイントの電話番号

詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。プロバイダにまだご加入でない場合は、市販の書籍などを参考にしてご加入ください。

●インターネット接続ソフトウェア

Windows®XPに標準で装備されている「ネットワーク接続」(Windows®2000の場合は、「ネットワークとダイヤルアップ接続」)を使用します。インストールされていない場合は、お手持ちのWindows®Server™XP/2000のシステムCD-ROMからインストールしてください。

インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

◇STEP2 ネットワークプロトコル(TCP/IP)をインストールする

インターネットに接続するためには「ネットワークプロトコル(TCP/IP)」をインストールする必要があります。すでに「TCP/IP」がインストールしてある場合は、次の「STEP3 ダイアルアップネットワークを設定する」に進んでください。

- 1 「スタート」→(Windows®2000の場合は、「スタート」→「設定」→)「コントロールパネル」→「ネットワーク接続(Windows®2000の場合は、「ネットワークとダイヤルアップ接続」)」をダブルクリックしてください。

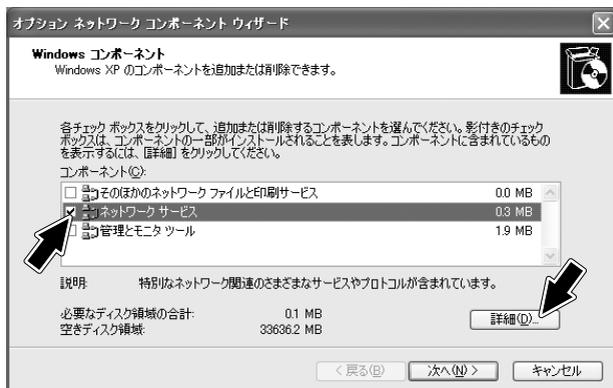


- 2 「詳細設定」メニューから「オプションネットワークコンポーネント」を選び、オプションネットワークコンポーネントウィザードを起動してください。

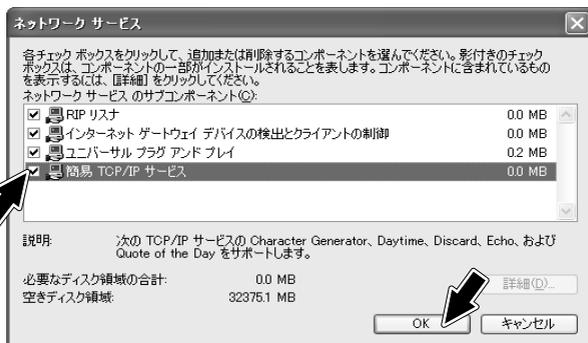


インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

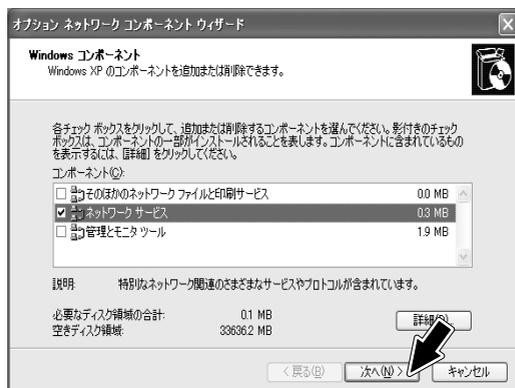
3 「ネットワークサービス」を選択しチェックを入れ、「詳細」をクリックしてください。



4 「簡易TCP/IPサービス」欄にチェックがあれば、すでにインストールは完了しています。次の「STEP3 ダイアルアップネットワークを設定する」に進んでください。チェックがない場合は、「簡易TCP/IPサービス」をチェックし、「OK」をクリックしてください。

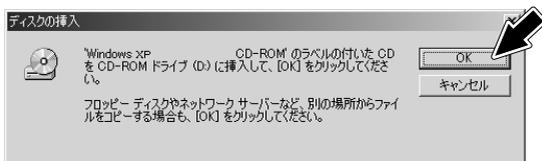


5 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」画面に戻りますので「次へ」をクリックしてください。



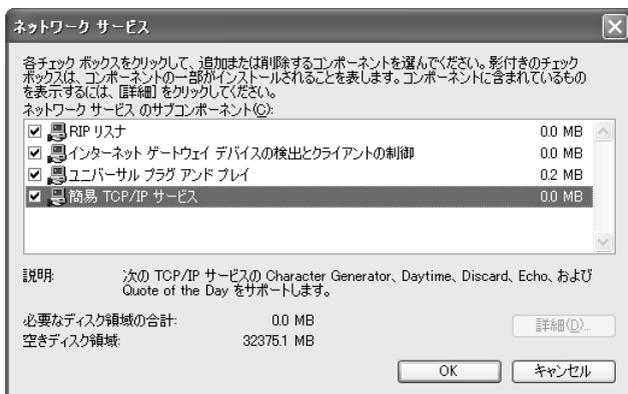
インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

- 6** 「ディスクの挿入」が求められる場合は、Windows®XP/2000システムディスクを挿入し、「OK」をクリックし、指示にしたがってください。



- 7** コンポーネントの再構成が行われ、「オプションネットワークコンポーネントウィザード」が終了します。

- 8** 再度、「詳細設定」→「オプションネットワークコンポーネント」→「ネットワークサービス」→「詳細」をクリックし、「簡単TCP/IPサービス」欄にチェックがあることを確認してください。



◇STEP3 ダイアルアップ ネットワークを設定する

以下は、Windows®XPの画面で説明しています。Windows®2000をお使いの方は、以下を参考にして設定してください。

1 ダイアルアップネットワーク設定画面を開く

Windows®XP 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」をダブルクリックしてください。

Windows®2000 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイアルアップ接続」をクリックしてください。



2 「新しい接続を作成する」をクリックしてください。

Windows®2000 「新しい接続の作成」アイコンをダブルクリックしてください。

* ご使用のパソコンによっては所在地情報の入力画面が表示されることがあります。必要に応じて入力、「OK」をクリックしてください。

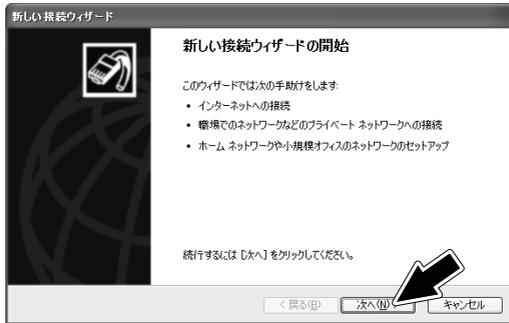


インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

3

「次へ」をクリックしてください。

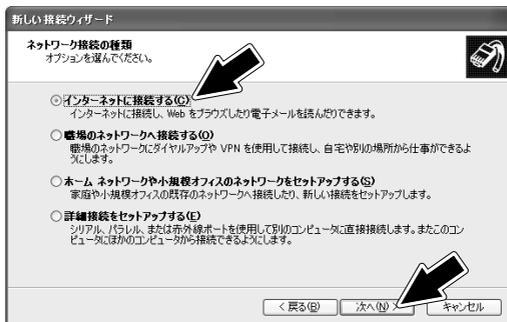
Windows®2000 「ネットワーク接続ウィザードの開始」の画面で「次へ」をクリックしてください。



4

「インターネットに接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

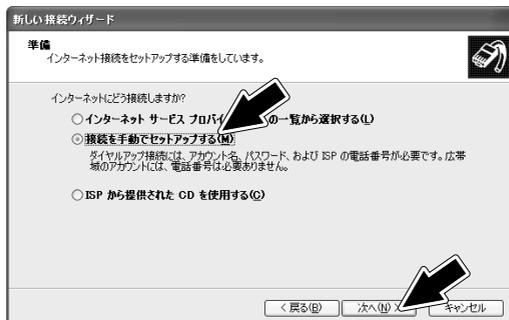
Windows®2000 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択してください。



5

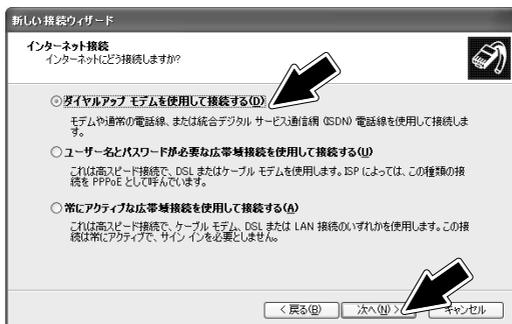
「接続を手動でセットアップする」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

Windows®2000 「インターネット接続を手動で設定するかまたは...」を選択してください。



インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

- 6** 「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。
Windows®2000 「電話回線とモデムを使って...」を選択してください。



- 7** デバイスの選択画面が出る場合には、「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」のみにチェックマークをつけて、「次へ」をクリックしてください。他のモデムにチェックが入っている場合は外してください。



- 8** 「ISP名」欄に「接続名」(プロバイダ名等、この例では「OMRON」)を入力し、「次へ」をクリックしてください。
Windows®2000 この画面は手順10の次に表示されます。



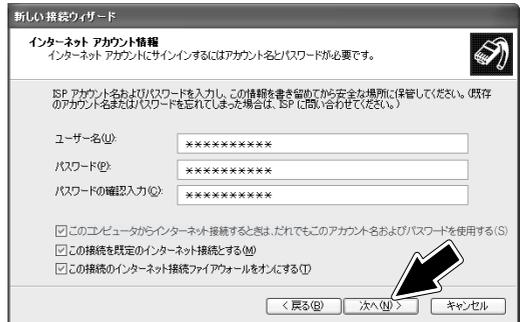
インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

9 [電話番号]欄にプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、「次へ」をクリックしてください。
Windows®2000の方は、「市外局番」欄は空白(空欄)にしてください。



10 プロバイダ情報(P22)を参考に[ユーザー名]、[パスワード]、[パスワードの確認入力]を入力し、「次へ」をクリックしてください。

Windows®2000の方は「インターネットメールアカウントの設定」画面が表示されます。「いいえ」を選択し、「次へ」をクリックしてください。



11 「完了」をクリックしてウィザードを終了してください。

Windows®2000の方は「今すぐインターネットに接続する...」のチェックを外してください。

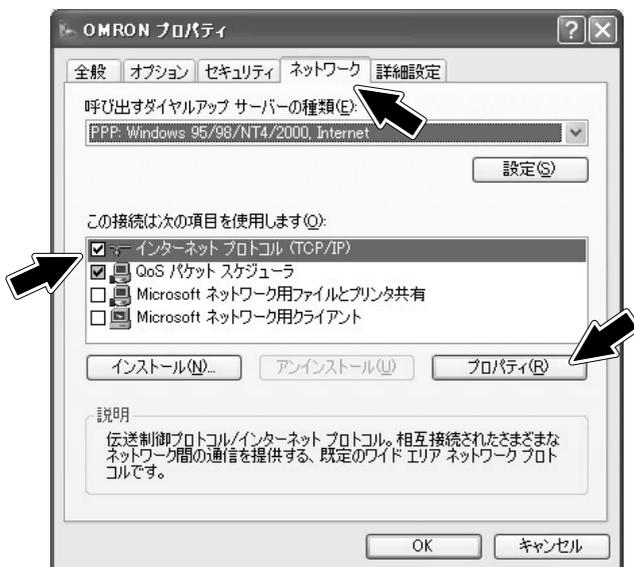


インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

12 「OMRONへ接続」画面が表示された場合は、「プロパティ」をクリックし、13へ進んでください。または「ネットワーク接続」画面に、新しく追加された「OMRON」アイコンを選択し、「ファイル」→「プロパティ」をクリックしてください。



13 「OMRONのプロパティ」画面が開きますので「ネットワーク」タブをクリックしてください。「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。



インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

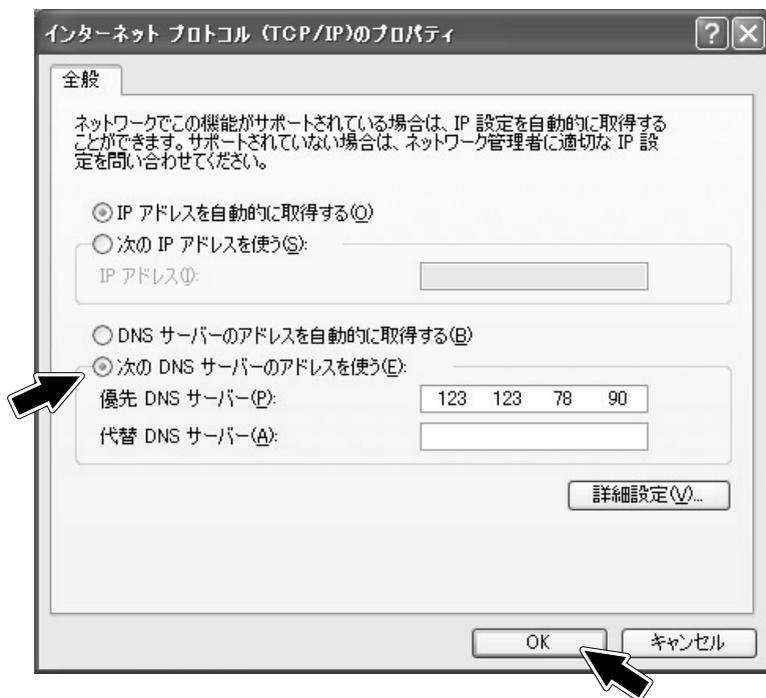
14 「次のDNSサーバのアドレスを使う」にチェックし、「優先DNSサーバー」にプロバイダから与えられたアドレス (P22のプロバイダ情報参照 例:123.123.78.90) の入力が入力済みなら「OK」をクリックしてください。

プロバイダからDNSアドレスを提供されない場合は、「DNSサーバのアドレスを自動的に取得する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

「プロパティ」画面の「OK」をクリックしてください。

デスクトップ画面に戻ります。「ネットワーク接続」の設定が完了しました。

「OMRONへ接続」画面に戻ったら、P32 2のユーザ名の確認へ進んでください。



◇ STEP4 インターネットへ接続する

インターネットへ接続するためにはホームページを閲覧するためのブラウザソフトがインストールされている必要があります。ここではブラウザソフトとしてインターネットエクスプローラ6.0(以下IE6.0)を使用します。Windows®XPの画面で説明しています。

1 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」をダブルクリックしてください。Windows®2000の方は「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックしてください。
P28で作成した接続名「OMRON」アイコンが表示されます。

2 「OMRON」アイコンをダブルクリックしてください。「ユーザ名(プロバイダから通知されたユーザID)」と「パスワード」が入っていることを確認してください。入力を確認したら「ダイヤル」をクリックしてください。
すると、接続が開始されます。
接続ができない場合はP68「●お困りのときには」をご参照ください。



まめ知識

- ・「次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する」をチェックすると、再接続の際、パスワードを入力する手間がなくなります。
- ・Windows®2000の場合、パスワードは「*」で表示されます。実際のパスワード文字数より多く表示されます。



●エラーメッセージが表示される

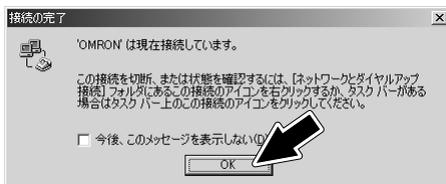
『発音音がありませんでした』『発音音が聞こえません』⇒P70 Q4参照

『リモートコンピュータが応答しませんでした』『ダイヤル先のコンピュータが応答しません。...』⇒P71 Q6参照

『ユーザ名またはパスワード、あるいはその両方が無効なため、このドメインにアクセスできませんでした』『ダイヤル先のコンピュータはダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。...』⇒P71 Q7参照

インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

3 プロバイダに接続されると、接続の完了ダイアログが表示されますので「OK」をクリックしてください。また、画面右下にあるタスクバーにダイヤルアップアイコン()のマークが表示されます。



4 プロバイダへの接続が完了したら、デスクトップ画面にあるIE6.0アイコンをダブルクリックしてください。ブラウザ(この例ではIE6.0)が起動します。(デスクトップ画面にない場合は、「スタート」→「インターネット」をクリックしてください。) インターネットエクスプローラのアドレス欄に「http://www.omron.co.jp/ped-j/」と入力してください。オムロン株式会社周辺機器事業部のホームページが表示されます。



留意事項

- WWW ブラウザソフトの操作は、ソフトの取扱説明書などを参照してください。

インターネットへ接続する (Windows® Server™2003/XP/2000)

5 IE6.0を終了します。
「ファイル」メニューの中から「閉じる」を選択してください。

6 電話回線を切断します。
デスクトップ画面右下にあるタスクバーに格納されているダイヤルアップアイコンをダブルクリックしてください。
「OMRONの状態」画面が表示されます。



7 「切断」をクリックしてください。「OMRONへの切断を終了しますか?」というメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

留意事項

- 上記5項でインターネットエクスプローラを終了しただけでは、アクセスポイントへの電話は切断されません。電話がつながった状態が続き、電話料金が加算されます。必ず上記7項の電話回線の切断を実行し、本モデムの「OH」ランプ、「CD」ランプが消灯していることをご確認ください。

● FAXを送る

Microsoft-Fax で、本モデムを使用する場合のセットアップ方法を説明します。

実際にご使用になる場合は、「コントロールパネル」→「プリンタ」にて、「Microsoft Fax」アイコンを右クリック→「通常使うプリンタに設定」を選択しておいてください。

ここでは、Windows®XP の画面を例に説明します。

- 1 「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「FAX」→「FAXコンソール」をクリックしてください。



- 2 メニューバーの「ツール」→「FAXの構成」をクリックしてください。「FAX構成ウィザード」画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。

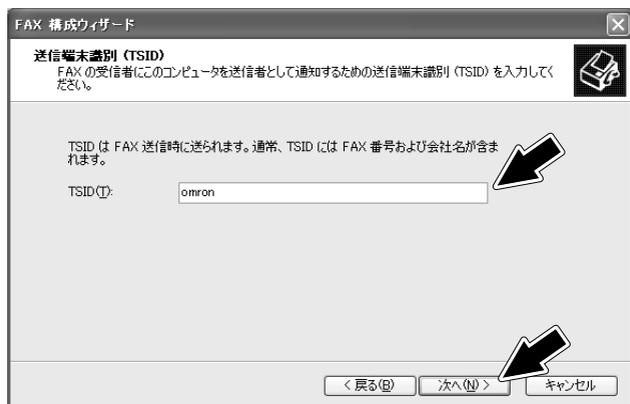
- 3 「送信者情報」画面が表示されますので、必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。

FAXを送る (Windows® Server™2003/XP/2000)

- 4** 「FAXデバイスを選択してください」の欄で「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」を選択し、「送信可能にする」「受信可能にする」欄は必要に応じて設定してください。入力したら「次へ」をクリックしてください。

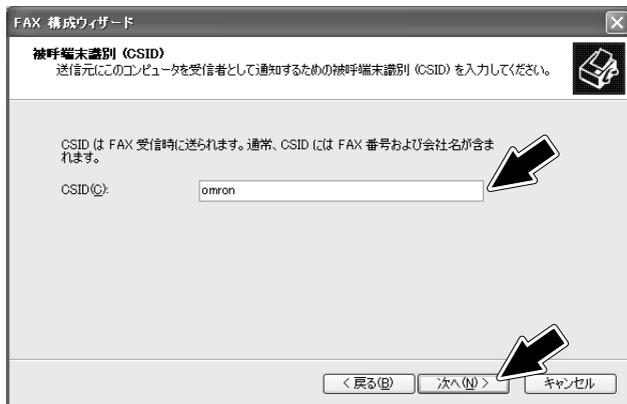


- 5** 「送信端末識別 (TSID)」画面が表示されます。「TSID」欄に、FAX番号や名前を入力します。入力したら「次へ」をクリックしてください。



FAX を送る (Windows® Server™2003/XP/2000)

- 6 「被呼端末識別 (CSID)」画面が表示されます。「CSID」欄に、自局のFAX番号や名前を入力します。入力したら、「次へ」をクリックしてください。



- 7 「ルーティングオプション」画面が表示されますので、必要に応じて設定し、「次へ」をクリックしてください。

- 8 「FAX構成ウィザードの完了」画面が表示されます。「完了」をクリックしてください。



以上で、設定は完了です。

詳しい使用方法については、各パソコンメーカーへご確認ください。
また、他のFAXソフトをご使用になる場合は、FAXソフトの取扱説明書をご参照のうえ、設定を行ってください。

ドライバをインストールする (Windows®Me/98SE)

●ドライバをインストールする (Windows®Me/98SE)

本モデムのドライバは添付CD-ROMに入っています。添付CD-ROMからインストールしてください。ドライバのインストールが済むと電話回線を使用することができます。

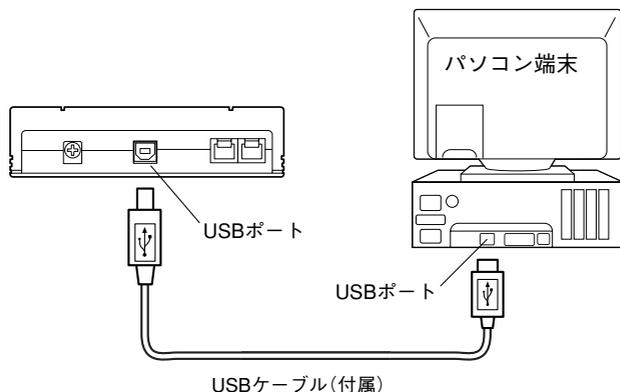
留意事項

- Windows®Meの画面を参照して説明しています。画面の表示が異なる場合がありますが、その場合は画面の指示に従ってください。インストール手順は一部分けて記載していますので、Windows®98SEをご利用の方はP41へ進んでください。

《Windows®Meの場合》

- 1 パソコンの電源を入れた状態で、付属のUSBケーブルでパソコンのUSBポートと本モデムを接続してください。

パソコンの機種によってUSBポートの位置が異なります。



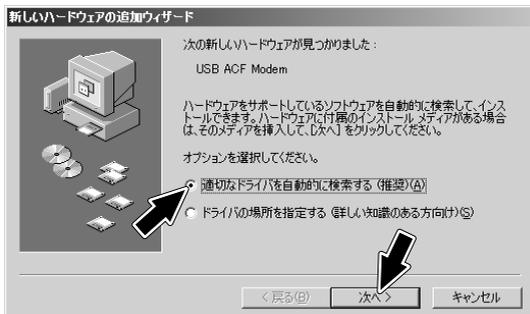
留意事項

市販のUSBケーブルをお使いの場合は、5m以内のUSBケーブルをお使いください。

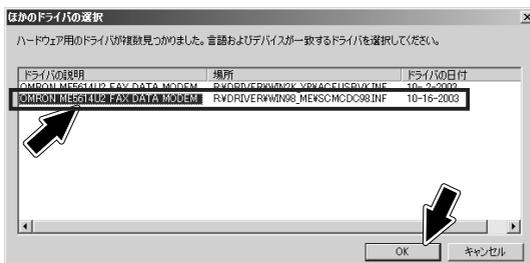
ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

2 「新しいハードウェアが検出されました」と表示されますのでME5614U2に添付のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入してください。

3 「適切なドライバを自動的に検索する(推奨)」をチェックして、「次へ」をクリックしてください。



4 「他のドライバの選択」画面が表示されます。表示されたドライバの「場所」から「WIN98_ME」の表示があるドライバ名をクリックし、「OK」をクリックしてください。



5 [完了] ボタンをクリックしてください。



ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

6 再度、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されますので、「適切なドライバを自動的に検索する(推奨)」をチェックして、「次へ」をクリックしてください。



7 「完了」をクリックしてください。

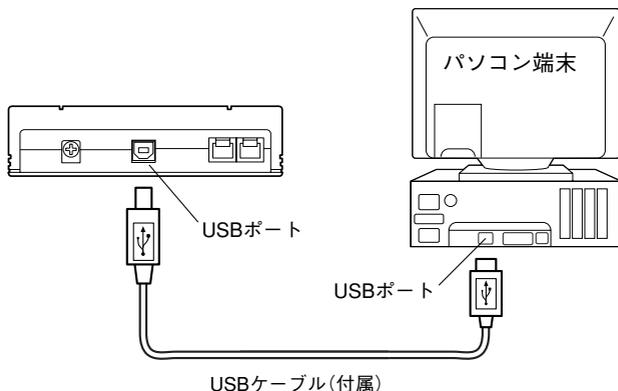


これでドライバのインストールが完了しました。
次にモデムとパソコンの接続を確認します。
P45《接続を確認する》へ進んでください。

ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

《Windows® 98SEの場合》

- 1** パソコンの電源を入れた状態で、付属のUSBケーブルでパソコンのUSBポートと本モデムを接続してください。
パソコンの種類によってUSBポートの位置が異なります。



注意事項

- 市販のUSBケーブルをお使いの場合は、5m以内のUSBケーブルをお使いください。

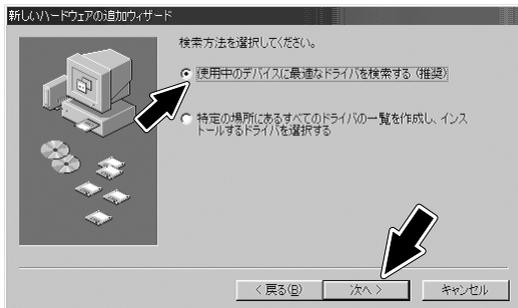
- 2** 「新しいハードウェアが検出されました」と表示され、ドライバ情報データベースが作成された後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されますので「次へ」をクリックしてください。



「新しいハードウェアが検出されました」と表示されない
→P68 Q2参照

ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

3 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面の「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」をクリックしてください。



4 ME5614U2に添付のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入し、「検索場所の指定」をチェックし、以下のように半角文字(大文字でも小文字でも可)で入力してください。

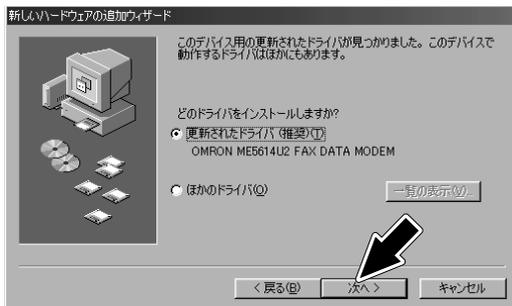
:¥Driver¥WIN98_ME

└─ お使いのパソコンのCD-ROMドライブ名

入力後、「次へ」をクリックしてください。



5 次の画面が表示されたら、「次へ」をクリックしてください。



ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

6 続けて、「次へ」をクリックしてください



7 「完了」をクリックしてください。



ご使用の機種によっては再起動を要求される場合があります。その場合は、画面の指示にしたがってください。

8 次の画面が表示されましたら、「次へ」をクリックしてください。



9 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面の「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」をクリックしてください。



ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

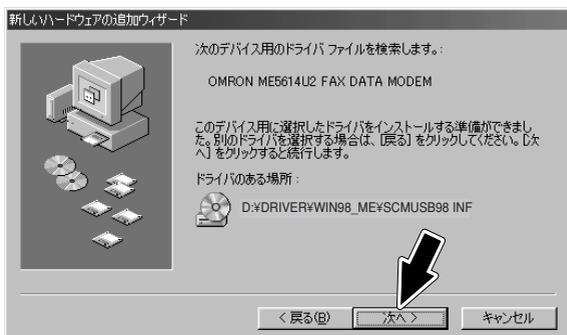
10 ME5614U2に添付のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入し、「検索場所の指定」をチェックし、以下のように半角文字(大文字でも小文字でも可)で入力してください。

:¥Driver¥WIN98_ME

└─ お使いのパソコンのCD-ROMドライブ名
入力後、「次へ」をクリックしてください。



11 次の画面が表示されましたら、「次へ」をクリックしてください。



12 「完了」をクリックしてください。



これでドライバのインストールが完了しました。

次にモデムとパソコンの接続を確認します。

次頁《接続を確認する》へ進んでください。

ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

《接続を確認する》

インストールしたドライバとパソコンに接続したME5614U2が正常に動作することを以下の手順で確認します。

- 1 デスクトップ画面の「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリックしてください。「コントロールパネル」が開きますので、「モデム」のアイコンをダブルクリックしてください。



- 2 プロパティ画面の「検出結果」タブをクリックして開いてください。ME5614U2が表示されているポートのアイコンをクリックして「詳細」(Windows®98SEの場合は、「詳細情報」)をクリックしてください。通信が完了すると「詳細」画面が表示されます。



留意事項

お使いのパソコンによってインストールされるポート(COM)が異なります。

ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

- 3** 「詳細」画面が表示されましたら接続は完了です。「詳細」画面の「OK」をクリックしプロパティの「OK」、コントロールパネルの  ボタンをクリックしてデスクトップ画面に戻ってください。



詳細情報を開こうとすると、
エラーメッセージが表示される
→P68 Q3参照

これでドライバのインストール及びモデムとパソコンの接続の確認が完了しました。

●インターネットへ接続する (Windows® Me/98SE)

◆STEP1 プロバイダ情報やソフトウェアを用意する

●プロバイダ情報

インターネットに接続するには、加入されたプロバイダから与えられた次の情報が必要です。設定の際に必要なになりますのでお手元に置いておいてください。

- ① ドメイン・ネーム (例: XXX.XXXXXX.or.jp)
- ② ドメイン・ネーム・サーバーIPアドレス (例: 123.123.78.90)
- ③ 接続アカウント (例: umw11122)
- ④ 接続パスワード (例: DdcjHbkk)
- ⑤ アクセスポイントの電話番号

詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。プロバイダにまだご加入でない場合は、市販の書籍などを参考にしてご加入ください。

●インターネット接続ソフトウェア

Windows®98SEに標準で装備されている「ダイヤルアップネットワーク」を使用します。インストールされていない場合は、お手持ちのWindows®Me/98SEのシステムCD-ROMからインストールしてください。

インターネットへ接続する (Windows® Me/98SE)

◇STEP2 ネットワークプロトコル (TCP/IP)をインストールする

インターネットに接続するためには「ネットワークプロトコル(TCP/IP)」をインストールする必要があります。すでに「TCP/IP」がインストールしてある場合は、次の「手順3 ダイアルアップネットワークを設定する」に進んでください。

1 デスクトップ画面の「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリックしてください。

2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックしてください。

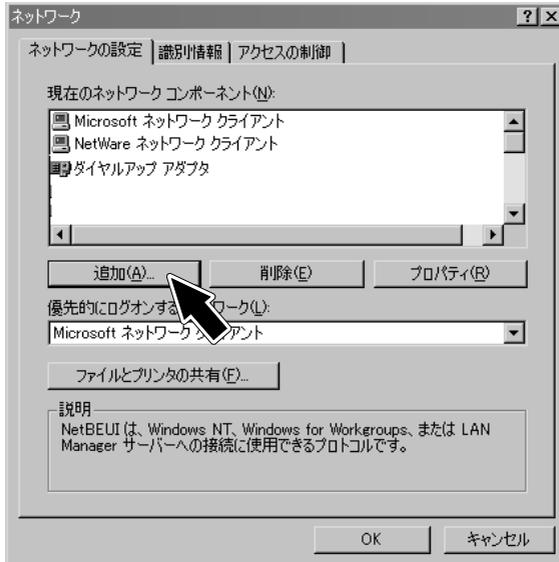


インターネットへ接続する (Windows® Me/98SE)

3

「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP」が表示されている場合は、すでにインストールは完了しています。「STEP 3 ダイアルアップネットワークを設定する」へ進んでください。

「TCP/IP」が表示されていない場合は「追加」をクリックしてください。

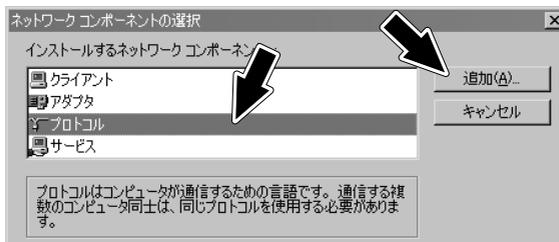


留意事項

- 「ダイヤルアップアダプタ」がインストールされていない場合はWindows®98SEのシステムCD-ROMからインストールしてください。詳しいインストール方法はご使用のパソコンメーカー等へご確認ください。

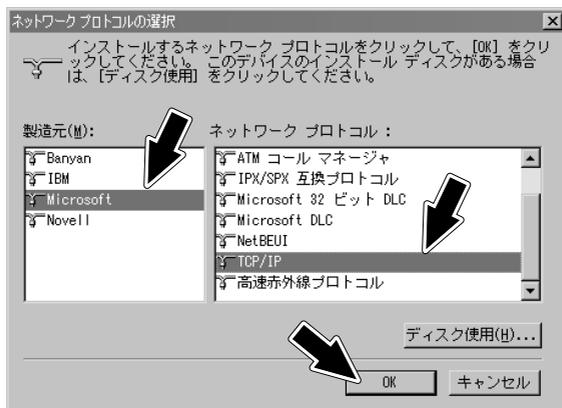
4

「ネットワークコンポーネントの選択」画面が開きますので、「プロトコル」をクリックして、「追加」をクリックしてください。



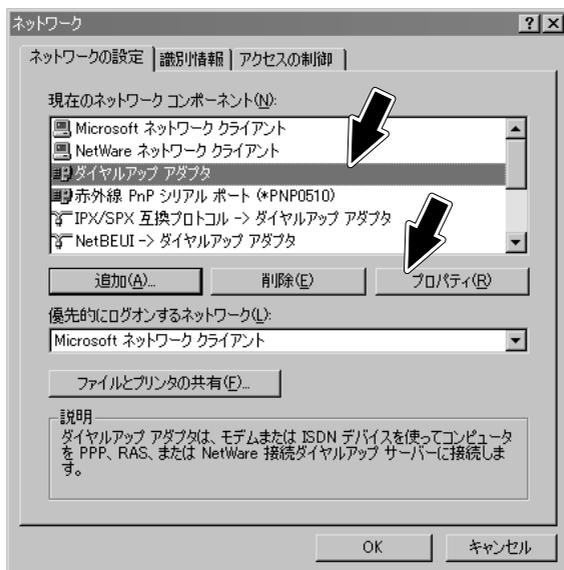
インターネットへ接続する (Windows® Me/98SE)

5 「製造元」欄の「Microsoft」、「ネットワークプロトコル」欄の「TCP/IP」をクリックし、「OK」をクリックしてください。



6 再度、「ネットワーク」画面が開き「TCP/IP」が追加されているのを確認することができます。

7 「ネットワーク」画面の「ダイヤルアップアダプタ」をクリックして「プロパティ」をクリックしてください。



インターネットへ接続する (Windows® Me/98SE)

8

「バインド」タブをクリックし、表示されているプロトコルの中から「TCP/IP」のチェックボックスをクリックして「OK」をクリックしてください。「ネットワーク」ウインドウに戻りますので「OK」をクリックしてください。これで、「ネットワークプロトコル」のインストールが完了しました。



留意事項

- 再起動により、ネットワークプロトコル「TCP/IP」が有効になります。
- その他の「ネットワークプロトコル」のインストールについては、他の関連する書籍などをご覧ください。

インターネットへ接続する (Windows®Me/98SE)

◇STEP3 ダイアルアップ ネットワークを設定する

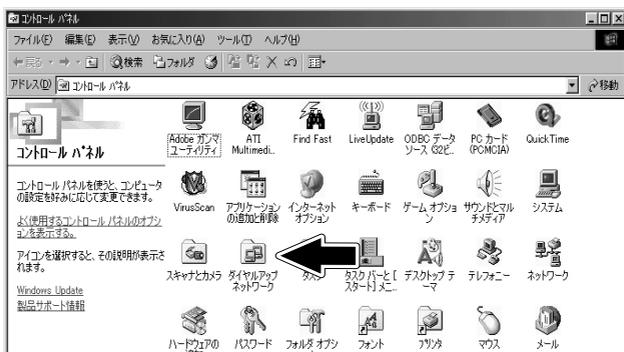
「ダイアルアップネットワーク」がインストールされていない場合は、Windows®Me/98SEのデスクトップ画面の「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」からインストールします。「Windows ファイル」タブ→「通信」→「詳細」→「ダイアルアップネットワーク」を選択し、「OK」をクリックしてインストール後、以下の設定を行ってください。詳しいインストール方法はパソコンなどの取扱説明書をご参照ください。

以下は、Windows®Meの画面で説明しています。Windows®98SEをお使いの方は、以下を参考にしてください。

1 ダイアルアップネットワーク設定画面を開く

Windows®Me 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ダイアルアップネットワーク」をダブルクリックしてください。

Windows®98SE 「マイコンピュータ」→「ダイアルアップネットワーク」をクリックしてください。

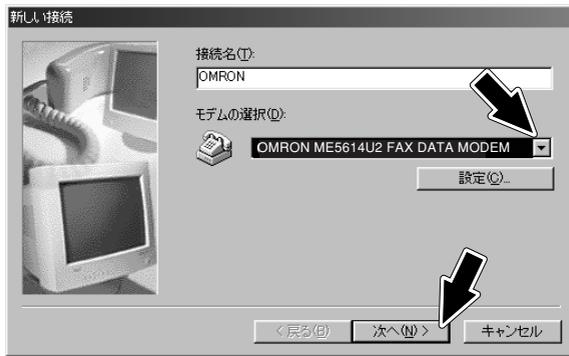


2 「ダイアルアップネットワーク」の中の「新しい接続」をダブルクリックしてください。



インターネットへ接続する (Windows® Me/98SE)

- 3** 「接続名」欄に「接続名」(プロバイダ名等、この例では「OMRON」)を入力してください。
「モデムの選択」欄の ▾ ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」を選択した後、「次へ」をクリックしてください。



- 4** 次の「新しい接続」画面の「市外局番」欄、「電話番号」欄、「国番号」欄を入力してください。「次へ」をクリックしてください。

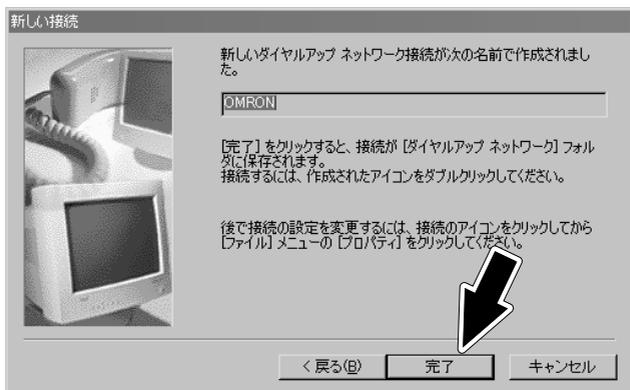
「電話番号の入力」欄

- ・ 市外局番 アクセスポイントの市外局番
- ・ 電話番号 アクセスポイントの電話番号
- ・ 国番号 ▾ ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「日本 (81)」を選択してください。

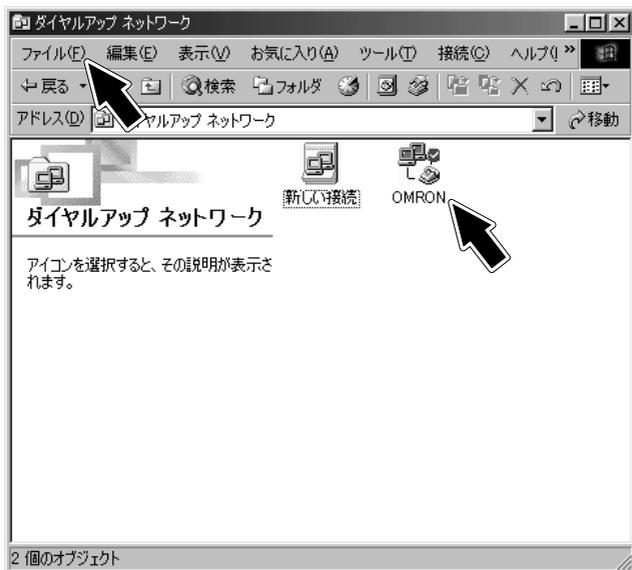


ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

5 次の「新しい接続」画面が開きますので、「完了」をクリックしてください。



6 「ダイヤルアップネットワーク」画面に、新しいアイコン「OMRON」が追加されます。新しく追加された「OMRON」アイコンを選択し、「ファイル」→「プロパティ」をクリックしてください。

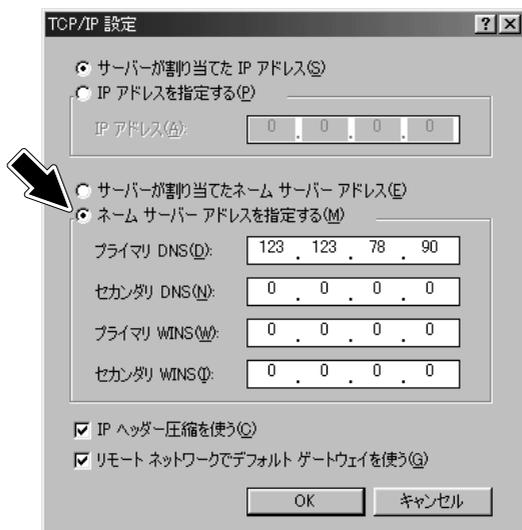


ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

- 7 「OMRON」のプロパティ画面が開きますので「ネットワーク」タブをクリックしてください。「詳細オプション」欄は、すべてチェックを外してください。「使用できるネットワークプロトコル」欄の「TCP/IP」だけチェックし、「TCP/IP設定」をクリックしてください。



- 8 「名前サーバーアドレスを指定」欄の「プライマリDNS」にプロバイダから与えられたアドレス (P47のプロバイダ情報参照 例:123.123.78.90) を入力し、入力が済んだら「OK」をクリックしてください。プロバイダからDNSアドレスが提供されていない場合は、「サーバが割り当てた名前サーバアドレス」をクリックし、「OK」をクリックしてください。「プロパティ」画面に戻ります。「プロパティ」画面の「OK」をクリックしてください。デスクトップ画面に戻ります。「ダイヤルアップネットワーク」の設定が完了しました。



◇STEP4 インターネットへ接続する

インターネットへ接続するためにはホームページを閲覧するためのブラウザソフトがインストールされている必要があります。ここではブラウザソフトとして「インターネットエクスプローラ」を使用します。

1 ダイヤルアップネットワーク設定画面を開く

Windows®Me 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ダイヤルアップネットワーク」をダブルクリックしてください。

Windows®98SE 「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」をクリックしてください。

「ダイヤルアップネットワーク」画面が開き「OMRON」アイコンが表示されます。

2 「OMRON」アイコンをダブルクリックしてください。

「接続」画面が表示されますので、プロバイダ情報 (P47) を参考に「ユーザー名」と「パスワード」を入力し「接続」をクリックしてください。P53の手順4で設定したアクセスポイントへのダイヤルが始まり、接続が開始されます。



- ・ エラーメッセージが表示されて、接続できない
→P68～71 Q3～Q9参照
- ・ 接続スピードが遅い
→P72 Q13参照
- ・ ホームページの表示が遅い
→P72 Q13参照

3 プロバイダへの接続が完了したら、デスクトップ画面にある「インターネットエクスプローラ」アイコンをダブルクリックしてください。「インターネットエクスプローラ」が起動します。

ドライバをインストールする (Windows® Me/98SE)

4 インターネットエクスプローラのアドレス欄に「http://www.omron.co.jp/ped-j/」と入力してください。オムロン株式会社周辺機器事業部のホームページが表示されます。



 エラーメッセージが表示され、ホームページが開けない
→P71 Q9参照

5 「インターネットエクスプローラ」の終了。
「ファイル」メニューをクリックしてプルダウンメニューから「閉じる」を選択してください。
「インターネットエクスプローラ」が終了します。

6 プロバイダへの接続を切断します。
デスクトップのタスクバーに格納されているダイヤルアップアイコンをクリックしてください。「接続」画面が表示されます。

7 「接続」画面の「切断」をクリックしてください。「OMRONへの切断を終了しますか?」というメッセージが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
プロバイダへの接続が切断されます。
ここで、「切断」をクリックして切断処理を行わないと、回線は接続されたままになります。
必ず「切断」をクリックして下さい。

留意事項

- 上記5項でインターネットエクスプローラを終了しただけでは、アクセスポイントへの電話は切断されません。電話がつながった状態が続き、電話料金が加算されます。必ず上記7項の電話回線の切断を実行し、本モデムの「OH」ランプ、「CD」ランプが消灯していることをご確認ください。

AT コマンドの基本

●ATコマンドの基本

ATコマンドは米国ヘイズ社によって開発されたモデム用コマンドで、AT○○○とパソコンより入力することにより、通信することができます。

■ATコマンドとは

ATコマンドでは、端末がモデムに送る命令を「コマンド」、命令に対してモデムから端末に返される文字列を「リザルトコード」と呼びます。ATコマンドは必ずATという文字で始め、最後にリターンコードを入力します。(A/を除く)。ATに続くコマンドは1行に複数入力することができます。大文字(AT)と小文字(at)の両方が使えます。(ただし、大文字と小文字の混在はできません)

ATコマンドのフォーマットは次のようになります。

A	T	コマンド	パラメータ	コマンド	パラメータ	コマンド	...	CR	LF
---	---	------	-------	------	-------	------	-----	----	----

最大40(ATを含め42)文字

※LFコードは省略可能

リザルトコードには単語と数字の形式があり、次のようなフォーマットになります。

CR	LF	リザルトコード(単語)	CR	LF
----	----	-------------	----	----

リザルトコード(数字)	CR
-------------	----

■データフォーマットの自動認識

ATコマンドでは、モデムは端末(パソコン、ワープロ等)から送られてくるコマンド先頭のATの2文字を検出することにより、端末の通信速度とデータフォーマットを自動的に認識します。

認識したデータフォーマットは不揮発メモリに保存可能です。

【例】 AT

留意事項

- 本モデムでは、通信速度、データフォーマットの初期値は「通信速度=9600bps」、「データ長=8ビット」、「パリティ=なし」になっています。キャラクタ長は10ビット固定です。不揮発メモリに保存する場合は、AT&W0もしくはAT&W1 と入力します。

■ コマンドリスト

● AT コマンド

● n は数値、mm は文字列を示します。

● パラメータ解説のデフォルト値は*、保存可能コマンド・レジスタは#で示しています。

コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
A/	コマンド再実行		
ATA	強制着信		
# ATBn	通信規格選択:ITU-T 規格、 BELL 規格の選択	* 0 1	300bps 時に ITU-T V.21 規格及び 1200bps 以上時に ITU-T V.22 規格選択 300bps時にBELL 103規格及び 1200bps 以上時に BELL 212A 規格選択
ATDmm	ダイヤル:モデムから電話回 線にダイヤル信号を送りま す	0~9 # *T P S=n W @ ! , ; L	電話番号 トーンダイヤル時のみ有効 トーン (プッシュ) 式でダイヤル パルス式でダイヤル AT&Z コマンドでモデム内に記憶して いる電話番号にダイヤル ダイヤルトーンの検出 無音の検出 フッキング ポーズ (時間は S8 レジスタで設定) ダイヤル後コマンドモードに戻る 直前にダイヤルした番号に再ダイヤル
# ATEn	コマンドエコー:モデムに入 力した文字列を端末にエ コーバックさせます。	0 *1	なし あり
# ATHn	回線制御:電話回線のオン、 オフを制御します	0 1	オンフック オフフック
ATIn	プロダクト ID 表示	0 1 2	プロダクトコード表示 ROM チェックサム表示 ROM チェックサム検証
ATLn	スピーカ音量	0,1 *2 3	小 中 大

AT コマンドの基本

	コマンド (nは数値、 mmは文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
#	ATMn	モニタスピーカ動作設定	0 * 1 2 3	常時オフ 通信開始までオン 常時オン ダイヤリング時オフ、以降1と同じ
	ATOn	オンラインモードへの復帰、 強制リトレイン:エスケープ モードからの動作を設定	0 1	オンラインモードへの復帰 強制リトレインによるオンラインモ ードへの復帰
#	ATP	パルスダイヤル設定		
#	ATQn	リザルトコード有無設定	* 0 1	あり なし
	ATSn=x ATSn?	Sレジスタの設定:Sレジス タの参照・設定を行う	n x ?	レジスタ番号 設定値 内容問い合わせ
#	ATT	トーン(プッシュ)ダイヤル 設定		
#	ATVn	リザルトコード表示形式: コマンド入力した時の実行 結果を知らせる形式の設定	0 * 1	数字形式 単語形式
#	ATWn	接続完了時の通信速度表示 形式の設定	0 * 1 2	端末-モデム間速度表示 通信規格、モデム-モデム間速度、 エラー訂正プロトコル、端末-モデム間速度表示 モデム-モデム間速度表示
#	ATXn	通信速度表示、ビジー・ダイ ヤルトーンの検出:接続完了 時の通信速度表示の有無、ビ ジー(話中音)・ダイヤルトー ン(発信音)の検出	0 * 1 2 3 4	速度表示なし、トーン検出なし 速度表示あり、トーン検出なし 速度表示あり、ダイヤルトーンを検出 速度表示あり、ビジートーンを検出 速度表示あり、ビジー・ダイヤルト ーン共に検出
	ATZn	ソフトウェアリセット	0 1	現在値エリアのリセット、プロファ イル0の読み込み 現在値エリアのリセット、プロファ イル1の読み込み
#	AT&Cn	CD信号制御	0 * 1	常時ON 相手モデムのキャリアに従う

AT コマンドの基本

	コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
#	AT&Dn	ER 信号制御	0 1 *2 3	常時 ON 動作 ER ON → OFF でエスケープ ER ON → OFF で回線断 ER ON → OFF でソフトウェアリセット
	AT&F	現在値エリアの設定を工場出荷時設定に戻す		工場出荷時設定で現在値エリアを初期化
#	AT&Kn	フロー制御	0 *3 4 5	フロー制御なし RS/CS フロー制御 XON/XOFF フロー制御 トランスペアレントな XON/XOFF フロー制御
#	AT&Pn	パルスダイヤル速度	*1 3	10PPS 20PPS
#	AT&Sn	DR 信号制御	*0 1	常時 ON シーケンスに従う
	AT&V	ステータス表示		
	AT&Wn	現在値エリアの内容を不揮発メモリに保存	0 1	プロファイル0として保存 プロファイル1として保存
#	AT&Yn	電源オン時の設定	*0 1	電源オン時プロファイル0設定をロード 電源オン時プロファイル1設定をロード
	AT&Zn=x	短縮ダイヤルメモリーに保存:電話番号を不揮発メモリーに保存		n:0 ~ 3 (短縮ダイヤル) x:電話番号 (30 桁まで登録可能)
	AT) Mn	MNP10 の設定を行います。	*0 1	MNP10 使用しない MNP10 使用する
	AT¥Bn	ブレーク信号送出	n=1 ~ 9	n * 100ms のブレーク信号送出 初期値 = 3

AT コマンドの基本

	コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
#	AT¥Kn	ブレーク信号制御 (H)モデムが DTE からブレーク信号を受信したとき	0, 2, 4 1 3 * 5	ブレークを相手モデムに送信せず、エスケープモードに入る 送受信バッファをクリアして、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータを飛び越して、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータと同様にブレーク信号をバッファリング
		(H)モデムが AT¥Bn コマンドを実行したとき	0, 1 2, 3 4, * 5	送受信バッファをクリアして、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータを飛び越して、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータと同様にブレーク信号をバッファリング
		(H)非エラー訂正接続中に相手モデムからブレーク信号を受信したとき	0, 1 2, 3 4, * 5	送受信バッファをクリアして、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータを飛び越して、ブレーク信号を送出 バッファ内のデータと同様にブレーク信号をバッファリング
#	AT¥Nn	エラー訂正設定	0 1 2 * 3 4 5	ノーマルモード ダイレクトモード V.42 リライアブルモード V.42 オートリライアブルモード LAPM リライアブルモード MNP リライアブルモード
#	AT%Cn	データ圧縮設定	0 1 2 * 3	データ圧縮なし MNP5 圧縮 V.42bis 圧縮 V.42bis、MNP5 自動選択
#	AT%En	自動リトレイン、フォールバック・フォールフォワード設定	0 1 * 2	なし リトレインあり フォールバック・フォールフォワードあり

AT コマンドの基本

コマンド (n は数値、 mm は文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味 (参考)
# AT+MS =a,b,c,d,e,f	通信規格の選択 (a,b,c,d,e,f はパラメータ数値をいれます。)	a= V21 V22 V22B V32 V32B V34 * V90 B103 B212 b= 0 * 1 c= 300 ~ 33600 d= 300 ~ 33600 e= 300 ~ 56000 f= 300 ~ 56000	300bps (V.21) 1200 bps (V.22) 1200,2400bps (V.22bis) 4800,9600bps (V.32) 4800,7200,9600,12000, 14400bps (V.32bis) 2400,4800,7200,9600,12000,14400, 16800,19200,21600,24000,26400, 28800,31200,33600bps (V.34) 28000,29333,30667,32000,33333, 34667,36000,37333,38667,40000, 41333,42667,45333,46667,48000, 49333,50667,52000,53333,54667, 56000bps (V.90) 300bps (Bell 103) 1200bps (Bell 212A) 自動速度応答なし 自動速度応答あり 送信最低通信速度を指定 (初期値) =300bps 送信最高通信速度を指定 (初期値) =33600bps 受信最低通信速度を指定 (初期値) =300bps 受信最高通信速度を指定 (初期値) =56000bps

AT コマンドの基本

● リザルトコード

AT コマンドを入力したとき、その実行結果を知らせるコードです。

数字形式	単語形式	意味
0	OK	正常実行
1	CONNECT	接続完了
2	RING	呼び出し検出
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	コマンドエラー
5	CONNECT 1200	1200bps 接続
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン未検出
7	BUSY	話中音検出
8	NO ANSWER	無音未検出
10	CONNECT 2400	2400bps 接続
11	CONNECT 4800	4800bps 接続
12	CONNECT 9600	9600bps 接続
13	CONNECT 7200	7200bps 接続
14	CONNECT 12000	12000bps 接続
15	CONNECT 14400	14400bps 接続
16	CONNECT 19200	19200bps 接続
17	CONNECT 38400	38400bps 接続
18	CONNECT 57600	57600bps 接続
19	CONNECT 115200	115200bps 接続
24	DELAYED	リダイヤル制限中
32	BLACKLISTED	リダイヤル制限中
40	+MRR:300	300bps キャリア検出
46	+MRR:1200	1200bps キャリア検出
47	+MRR:2400	2400bps キャリア検出
48	+MRR:4800	4800bps キャリア検出
49	+MRR:7200	7200bps キャリア検出
50	+MRR:9600	9600bps キャリア検出
51	+MRR:12000	12000bps キャリア検出
52	+MRR:14400	14400bps キャリア検出
53	+MRR:16800	16800bps キャリア検出
54	+MRR:19200	19200bps キャリア検出
55	+MRR:21600	21600bps キャリア検出
56	+MRR:24000	24000bps キャリア検出
57	+MRR:26400	26400bps キャリア検出
58	+MRR:28800	28800bps キャリア検出
59	CONNECT 16800	16800bps 接続
61	CONNECT 21600	21600bps 接続

AT コマンドの基本

数字形式	単語形式	意味
62	CONNECT 24000	24000bps 接続
63	CONNECT 26400	26400bps 接続
64	CONNECT 28800	28800bps 接続
66	+DR:ALT	MNP5 接続
67	+DR:V42B	V.42bis 接続
69	+DR:NONE	非圧縮モード接続
70	+ER:NONE	非エラー訂正モード接続
77	+ER:LAPM	LAPM 接続
78	+MRR:31200	31200bps キャリア検出
79	+MRR:33600	33600bps キャリア検出
80	+ER:ALT	MNP4 接続
81	+ER:ALT-CELLULAR	MNP10 接続
84	CONNECT 33600	33600bps 接続
91	CONNECT 31200	31200bps 接続
134	+MCR: B103	BELL 103 で接続
135	+MCR: B212	BELL 212A で接続
136	+MCR: V21	ITU-T V21 で接続
137	+MCR: V22	ITU-T V22 で接続
138	+MCR: V22B	ITU-T V22bis で接続
140	+MCR: V32	ITU-T V32 で接続
141	+MCR: V32B	ITU-T V32bis で接続
142	+MCR: V34	ITU-T V34 で接続
145	+MCR: V90	ITU-T V90 で接続
150	+MRR: 32000	32000bps キャリア検出
151	+MRR: 34000	34000bps キャリア検出
152	+MRR: 36000	36000bps キャリア検出
153	+MRR: 38000	38000bps キャリア検出
154	+MRR: 40000	40000bps キャリア検出
155	+MRR: 42000	42000bps キャリア検出
156	+MRR: 44000	44000bps キャリア検出
157	+MRR: 46000	46000bps キャリア検出
158	+MRR: 48000	48000bps キャリア検出
159	+MRR: 50000	50000bps キャリア検出
160	+MRR: 52000	52000bps キャリア検出
161	+MRR: 54000	54000bps キャリア検出
162	+MRR: 56000	56000bps キャリア検出
165	CONNECT 32000	32000bps 接続
166	CONNECT 34000	34000bps 接続
167	CONNECT 36000	36000bps 接続
168	CONNECT 38000	38000bps 接続
169	CONNECT 40000	40000bps 接続
170	CONNECT 42000	42000bps 接続

AT コマンドの基本

数字形式	単語形式	意味
171	CONNECT 44000	44000bps 接続
172	CONNECT 46000	46000bps 接続
173	CONNECT 48000	48000bps 接続
174	CONNECT 50000	50000bps 接続
175	CONNECT 52000	52000bps 接続
176	CONNECT 54000	54000bps 接続
177	CONNECT 56000	56000bps 接続
180	CONNECT 28000	28800bps 接続
181	CONNECT 29333	29333bps 接続
182	CONNECT 30667	30667bps 接続
183	CONNECT 33333	33333bps 接続
184	CONNECT 34667	34667bps 接続
185	CONNECT 37333	37333bps 接続
186	CONNECT 38667	38667bps 接続
187	CONNECT 41333	41333bps 接続
188	CONNECT 42667	42667bps 接続
189	CONNECT 45333	45333bps 接続
190	CONNECT 46667	46667bps 接続
191	CONNECT 49333	49333bps 接続
192	CONNECT 50667	50667bps 接続
193	CONNECT 53333	53333bps 接続
194	CONNECT 54667	54667bps 接続
195	+MRR:28000	28000bps キャリア検出
196	+MRR:29333	29333bps キャリア検出
197	+MRR:30667	30667bps キャリア検出
198	+MRR:33333	33333bps キャリア検出
199	+MRR:34667	34667bps キャリア検出
200	+MRR:37333	37333bps キャリア検出
201	+MRR:38667	38667bps キャリア検出
202	+MRR:41333	41333bps キャリア検出
203	+MRR:42667	42667bps キャリア検出
204	+MRR:45333	45333bps キャリア検出
205	+MRR:46667	46667bps キャリア検出
206	+MRR:49333	49333bps キャリア検出
207	+MRR:50667	50667bps キャリア検出
208	+MRR:53333	53333bps キャリア検出
209	+MRR:54667	54667bps キャリア検出
+F4	FCERROR	

注：+MRR:の後には、以下の通り送信キャリア速度と受信キャリア速度が表示されます。

+MRR:X,Y (X:送信キャリア速度、Y:受信キャリア速度)

● S レジスタ

レジスタ	設定値 (初期値)	機 能
# S0	0 自動着信なし 1～55 (0)	自動着信 / 着信呼出回数の設定 自動着信するまでの呼出回数を設定します。 (単位: 回)
S1	0～255	着信呼出回数のカウント モデムが呼出信号を受信したとき、その受信回数をカウントします。 呼出信号を8秒間受信しないと0になります。(読み出し専用)
# S2	0～127 (43)	エスケープコードの設定 データ通信中、一時的にコマンド入力ができる状態にするためのエスケープコードを設定します。(10進のアスキーコード)
S3	0～127 (13)	CRコードの設定 コマンドの最後に入力するキャリッジリターンコードを設定します。 (10進のアスキーコード)
S4	0～127 (10)	LFコードの設定 ラインフィードコードを設定します。画面を1行スクロール(改行)させるためのコードを設定します。(10進のアスキーコード)
S5	0～32、127 (8)	BSコードの設定 バックスペースコードを設定します。コマンドの入力ミスを訂正するためのコードを設定します。(10進のアスキーコード)
S6	4 固定 (設定不可)	ATX0、X1、X3 設定時のダイヤルまでの待ち時間設定 ATX0、X1、X3 設定時には、オフフックからダイヤルまでの待ち時間を設定します。(単位: 秒)
S7	50 固定	オフフック制限タイマ 通信開始までの待ち時間 オフフックから、このレジスタで設定された時間までに相手モデムのキャリアが検出されないと、“NO CARRIER”を表示し、オンフックします。 (単位: 秒)
# S8	2～7 (2)	ダイヤルポーズ時間 ダイヤルオプションの“,”(カンマ)でダイヤル信号送出を休止する時間を設定します。(単位: 秒)
# S10	1～255 (14)	キャリア許容断時間 通信中にこのレジスタで設定した時間以上、相手モデムからキャリアがなかったとき、回線を切断します。このレジスタを255に設定した場合は、回線を切断しません。通信中によく回線が切れるときは、このレジスタの設定値を大きくしてください。(単位: 1/10 秒)
# S12	20～255 (50)	ガードタイム エスケープコードの前後のデータ送信を行わない時間を設定します。 (単位: 1/50 秒)
S30	0: アボートタイマなし 1～255 (0)	アボートタイマ データの送信または受信が一定時間以上ないときに回線を切断するアボートタイマの時間を設定します。エラー訂正モードでは、データを送信または受信したときにこのタイマがリセットされます。また、非エラー訂正モードでは、データを送信したときにこのタイマがリセットされます。(単位: 10 秒)
S91	10～15 (15)	データ通信の送出レベル変更 詳細は5ページを参照してください。
S92	10～15 (15)	FAX通信の送出レベル変更 詳細は5ページを参照してください。

●お困りのときには

本モデムの動作やインターネット接続に問題がある場合の対策や各種要望などについて説明します。本章に記載されている対策でも解決されない場合は、当社カスタマサポートセンタ（TEL ☎ 0120-77-4717）へお問い合わせください。

Q1. 本モデムの [PW] ランプが点灯しない

1. パソコンの電源が入っていること、およびパソコンと本モデムがUSBケーブルで正しく接続されていることを確認してください。一度両側共抜き、再度差し込み直してください。
2. パソコン側のUSBポートが複数ある場合は、USBケーブルを抜いて別のUSBポートに差し込んでください。
3. USBハブを利用している場合は、USBハブを使用せず、パソコンとモデムを直接接続するか、セルフパワー型(ACアダプタなどで外部から電源供給を受けるタイプ)のUSBハブを使用して接続してみてください。
4. パソコンのUSBポートから、本モデムに必要な電源が供給されていない場合があります。セルフパワー型(ACアダプタなどで外部から電源供給を受けるタイプ)のUSBハブをお持ちの場合は、USBハブを使用して接続してください。
5. ドライバが削除されていませんか。もう一度インストールし直してください。

上記を確認後、[PW]ランプが点灯しない場合、本モデムが故障しています。本書巻末の「修理依頼票」を利用して、当社周辺機器修理センタへ修理依頼をしてください。「修理のご案内」(P87)を参照してください。

Q2. 「新しいハードウェアが検出されました」と表示されない

1. 上記Q1の1~4をご確認ください。
2. USBマウス、USBキーボードを除く、他のUSB機器を使用している場合は、それぞれのUSB機器を正しい手順に従い、パソコンから取り外してください。
3. パソコンと本モデムをUSBケーブルで接続した状態で、以下の作業を行ってください。

- ①Windows® Server™2003/XPの場合は[スタート]→[コントロールパネル]→[システム]の順にダブルクリックしてください。
Windows®Server™2003/XP以外のOSの場合は[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[システム]の順にダブルクリックしてください。
- ②Windows®Server™2003/XP、2000の場合は[ハードウェア]タブ→[デバイスマネージャ]をクリックしてください。Windows Me/98SEの場合は、[デバイスマネージャ]タブをクリックしてください。
一覧に表示されている[サウンド、ビデオおよびゲームのコントローラ]や[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]または[USBコントローラ]の下にあるデバイス名の左側に黄色の「(?)」「(!)」赤色の「(X)」等のマークが付いていたり、「その他のデバイス」、「不明なデバイス」「USB ACF Modem」と表示されている場合は、そのデバイスを選択し、削除を実行してください。
- ③次にドライバをアンインストールしてください。「ドライバの削除方法」(P75)参照
- ④USBケーブルをパソコンから抜き、再度インストールを行ってください。

Q3. 次のエラーが表示され、インターネットに接続できない

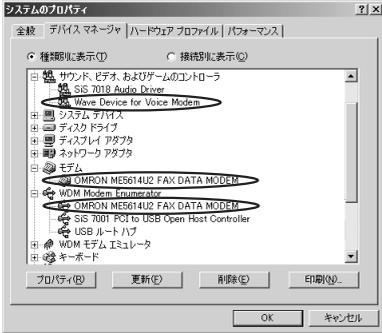
エラー 630:
コンピュータは、モデムからの応答を受信しません。モデムが正しく装着されているか確認し、必要であればモデムの電源を一度切って、入れ直してください。

エラー 630:
モデムが正しく応答していません。

1. モデムが正常にインストールされていますか？パソコンにモデムがインストールされていることを確認してください。

《Windows®Me/98SEの場合》

- ①「コントロールパネル」の中の「システム」をダブルクリックしてください。
- ②「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。下記のような画面が表示されていることを確認してください。

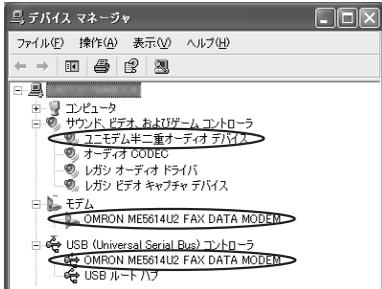


上図のように正しく表示されない場合

「○OMRON...」または「?その他のデバイス」、「◇不明なデバイス」と表示された場合は、選択して削除してください。その後、本ガイドP75を参照し、ドライバをアンインストールしてください。その後再インストールします。

《Windows®Server™2003/XP/2000の場合》

- ①「コントロールパネル」の中の「システム」をダブルクリックしてください。
- ②「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックしてください。下記のような表示がされていることを確認してください。



※USB(Universal Serial Bus)コントローラ内の表示はパソコンによって表示されない場合がありますが、問題ありません。

上図のように正しく表示されない場合

「○OMRON...」または「?その他のデバイス」、「◇不明なデバイス」と表示された場合は、選択して削除してください。その後、本ガイドP75を参照し、ドライバをアンインストールしてください。その後再インストールします。

2. 「モデムの照会」が開けますか？

(Windows® Server™2003/XP/2000)
設定したドライバとパソコンに接続したME5614U2が正常に動作するかどうかを確認します。

- ①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックしてください。
- ②[電話とモデムのオプション]をダブルクリックし[モデム]タブをクリックしてください。[OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM]が表示されているポートのアイコンをクリックし、[プロパティ]をクリックしてください。



- ③[診断]タブをクリックし、[モデムの照会]をクリックしてください。
- ④しばらくするとモデムとの応答結果が表示されます。[モデムの照会]画面が表示されたら接続は完了です。[OK]をクリックし、デスクトップ画面に戻ってください。



Windows Me/98SEの方は、[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[モデム]の順にダブルクリックしてください。[検出結果]タブをクリックし、「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」が表示されているポートをクリックし、[詳細]または[詳細情報]をクリックすると確認できます。結果は④を参照してください。

お困りのときには

3. 他のモデムを選択していませんか？

[スタート]→[接続]→[OMRON(ご自身で設定した接続名)]→[プロパティ]をクリックしてください。

Windows® Server™2003/XP以外の方は、作成したダイヤルアップの接続アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックしてください。



正しく選択されているか、または「OMRON ME5614U2」のみチェックが入っているか、ご確認ください。

Q4. 次のエラーが表示され、インターネットに接続できない

エラー 680:
発信音が聞こえません。

1. 回線は正しく接続されていますか？

モジュラーケーブルがME5614U2の背面のLINE端子に接続されているか確認してください。

2. 他のモデムを選択していませんか？

上記 Q3 の 3 を参照し、確認してください。

3. 内線発信の回線ではありませんか？

① Windows® Server™2003/XP/2000の方は、[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[電話とモデムのオプション]→[モデム]→[プロパティ]→[ダイヤルの管理]→[発信音を待ってからダイヤルする]のチェックをはずしてください。

Windows Me/98の方は、[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[モデム]→[プロパティ]→[接続]タブ→[トーンを待ってからダイヤルする]のチェックをはずしてください。

② Windows® Server™2003/XP/2000の方は、[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→([ネットワークとダイヤルアップ接続]→)[接続するプロバイダのアイコン]をダブルクリック→[プロパティ]→[全般]タブ(→[規則])→[ダイヤル情報]→[編集]→[全般]の[市内通話の場合の外線発信番号][市外通話の場合の外線発信番号]の欄に[0]や[9]などの外線発信番号を入力します。



③ Windows Me/98SEの方は、[マイコンピュータ]→([コントロールパネル]→)[ダイヤルアップネットワーク]→[接続するプロバイダのアイコン]をダブルクリックしてください。[市内通話]や[市外通話]または[長距離]欄に[0]や[9]などの外線発信番号を入力します。

Q5. 次のエラーが表示され、インターネットに接続できない

エラー 676:
回線が使用中です。
しばらくしてから、やり直してください。

エラー 676:
電話回線はビジーです。

1. 回線が混んでいませんか？

アクセスポイントの回線が混んでいることが考えられます。アクセスポイント先の電話番号を変更してみてください。

2. お使いの電話回線の種類

(トーン・パルス)は間違っていますか？

[スタート] → [接続] → 「OMRON (ご自身で設定した接続名)」 → [プロパティ] をクリックしてください。

[全般] タブの電話番号欄で [ダイヤル情報を使う] にチェックマークをつけ、[ダイヤル情報] をクリックしてください。

所在地情報をクリックし、[編集] をクリックしてください。ダイヤル方法でお使いの電話回線 (トーン・パルス) を選び、再び接続し直してみてください。

3. 自動発信規制がかかっていませんか？

本モデムでは、話中の場合と同じ電話番号への発信は3分間で2回以内に制限されます。最初の発信から3分待つか、別の電話番号へ発信してください。

Q6. 次のエラーが表示され、インターネットに接続できない

エラー 678:
ダイヤル先のコンピュータが応答しません。
しばらくしてからやり直してください。

エラー 678:
リモートコンピュータが応答しませんでした。……

1. 回線が混んでいませんか？

回線が混雑してつながらない可能性があります。しばらくしてから、もう一度接続してみるか、他のアクセスポイントに接続して接続できるかをご確認ください。

2. アクセスポイントに間違いがありませんか？

接続先の電話番号に間違いがないかご確認ください。他のアクセスポイントの番号へ変更してどうかお試しください。

Q7. 次のエラーが表示され、インターネットに接続できない

エラー 691:
ユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が無効なため、このドメインにアクセスできませんでした。

エラー 691:
ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップ接続を確立できませんでした。パスワードを確認してからやり直してください。

1. パスワードが間違っていますか？

ID、パスワードの入力が間違っている可能性があります。もう一度正しく入力し直してください。また入力方法は半角入力で大文字、小文字などを間違えないようご注意ください。

Q8. 「サーバーの種類で指定された互換性のあるネットワークプロトコルを処理できませんでした。コントロールパネルでネットワーク設定を調べてから接続し直してみてください。」というメッセージが出て接続できない

1. [スタート] → [接続] → [OMRON (ご自身で設定した接続名)] → [プロパティ] をクリックしてください。「ネットワーク」タブをクリックし、「この接続は次の項目を使用します」は「インターネットプロトコル (TCP/IP)」にチェックを入れてください。

Q9. ブラウザを開いたときに「～が見つかりません」「http://～/が見つかりません」などのメッセージが表示される

1. ドメインネームサーバー (DNS) の IP アドレスやドメイン名の設定が間違っていないかプロバイダから通達された資料を確認してください。
2. ダイヤルアップネットワークで作成したアイコンを削除し、「新しい接続」アイコンから作り直してください。

Q10. モデムを初期化したい

1. モデムの動作を確認する P73 参照

Q11. 接続後、パソコンの画面表示が遅くなるまたは回線が切断される

1. [スタート] → [コントロールパネル] → [システム] → [詳細設定] タブをクリックしてください。パフォーマンス欄の「設定」をクリックし、「パフォーマンスを優先する」にチェックを入れ、「OK」をクリックしてください。その後パソコンを再起動してください。
Windows Me/98SE の方は、[マイコンピュータ] を右クリックし、→ [プロパティ] をクリックします。[パフォーマンス] タブ → [グラフィックス] ボタンをクリックし、[ハードウェアアクセラレータ] を [最大] から [なし] にして [OK] をクリックします。その後パソコンを再起動してください。

お困りのときには

Q12. ドライバのインストールの失敗後に、再インストールを試すが、USBケーブルを抜きさしても「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されない

1. パソコンを「Safe Mode」で起動します。(起動方法はパソコンによって異なりますので、パソコンのマニュアルをご参照ください。)起動後に[スタート]→([設定]→)[コントロールパネル]→[システム]→([ハードウェア]タブを選択し、)[デバイスマネージャ]をクリックし、[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]をダブルクリックします。「不明なデバイス」が表示されている場合には、削除します。パソコンからUSBケーブルを抜き、パソコンを再起動します。起動後、USBケーブルを差し込むと、認識をはじめます。

Q13. 接続スピードが遅い、ホームページの表示が遅い

1. 最大56Kbpの高速通信を実現させるV.90方式では、回線側の影響を受けやすくなっています。回線の品質以上の速度で接続した際に、頻繁にリトレインやフォールバック/フォワードを起こしているのかもしれない。またその際にエラー訂正も実施されるために、非常にデータの転送速度が遅くなっている可能性があります。

《Windows® Server™2003/XP/2000の場合》

「マイコンピュータ」→「電話とモデムのオプション」→「モデム」タグ→「OMRON ME5614U2」をクリック→「プロパティ」→「詳細」タグ→「追加の初期化コマンド」に下記を入れます。

《Windows® Me/98SEの場合》

「マイコンピュータ」→「ダイヤルアップネットワーク」→「接続先アイコン」右クリック→「プロパティ」→「設定」タグ→「詳細」→「追加設定」に下記を入れます。

- ① 接続速度を下げます。
ATコマンド、“+MS=V90,1,300,33600,****”を追加してみてください。****は48000, 46667, 45333, 42667を入れ替えてみます。
- ② V.90ではなくV.34で接続します。
ATコマンド、“+MS=V34”
- ③ リトレイン.フォールバック/フォワードの設定をします。ATコマンド、“%E2”を追加します。変わらなければ“%E1”を入れてみてください。
- ④ MNP接続の設定をします。
ATコマンド“¥N5%C1”を追加してみてください。

2. ノイズ対策

- ・モジュラーケーブルをできるだけ短いものにしてください。

- ・テレビ、ラジオ、電化製品、電源コンセントからできるだけ離してみてください。
ノイズを発生しやすいものを近づけないでください。

3. PHONE端子に電話機/FAX機を接続している場合は、外してみてください。

Q14. 付属のケーブルが短いので、長くしたい

1. 市販されているケーブルを別途お買い求めください。
 - ・USBケーブル ----- 5mまで延長可能
 - ・モジュラーケーブル- 6極4芯または、6極2芯。長くしすぎると回線にノイズが乗り、通信速度が遅くなる可能性があります。

Q15. ダイヤル (パルス) 発信時の音量を小さくしたい

- ① Windows® Server™2003/XP/2000の方は、[スタート] → ([設定] →) [コントロールパネル] → [電話とモデムのオプション]の順にクリックしてください。
Windows Me/98SEの方は、[マイコンピュータ] → [コントロールパネル] → [モデム]の順にダブルクリックしてください。
- ② Windows® Server™2003/XP/2000の方は、[モデム] タブ → [OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM] → [プロパティ] → [詳細設定] タブ ([詳細] タブ)の順にクリックしてください。
Windows Me/98SEの方は、[OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM] → [プロパティ] → [接続] → [詳細]の順にクリックしてください。
- ③ [追加の初期化コマンド]欄または[追加設定]欄に“ATL0M0&W”(0は数字のゼロです。)と入力し、[OK]をクリックしてください。

Q16. CD-ROM がわからない

「マイコンピュータ」をダブルクリックします。(WindowsXPの場合は、「スタート」→「マイコンピュータ」の順にクリックします。) CD-ROM(D)が、CD-ROMドライブになります。(下記、例ではDドライブがCD-ROMドライブになります。)



◇モデムの動作を確認する

本モデムとパソコンとの接続を、時報（117）に接続して確認します。

購入後初めて使用するときや、長時間、電源をOFFした後、または、設定を間違えたために正常に動作しなくなった場合は、モデムを初期化してください。

以下はWindows XPの画面で説明します。OSにより多少手順や画面表示が変わります。

- ①「スタート」→「すべてのプログラム」または「プログラム」→「アクセサリ」→（「通信」）→「ハイパーターミナル」をクリックしてください。「HyperTerminal」画面が表示されます。

大切

ハイパーターミナルがない場合は各OSのシステムCD-ROMからインストールしてください。詳しいインストール方法はご使用のパソコンメーカーへご確認ください。

- ②「接続の設定」画面の「名前 (N)」欄に適当な名前（ここでは例として「ABC」と入力します）を入力し、「OK」をクリックしてください。



- ③「電話番号 (P)」欄に適当な数字（この例では「111」と入力します）を入力し、「接続方法 (N)」欄はプルダウンメニューから「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」を選択してください。「OK」をクリックしてください。



- ④「キャンセル」をクリックしてください。これでATコマンドの入力可能なターミナルモードに入ります。



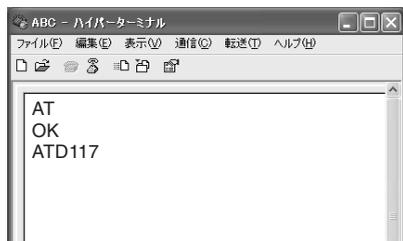
⑤ ターミナルモードで、次のようにATコマンドを入力して時報に接続します。

- 1) **AT**

OKが表示されます。
ATが表示されない場合でも**AT** と入力し**OK**が表示されるか確認してください。
ATもしくは**OK**が表示されない場合は**AT&F** を入力してください。
ATおよび**OK**が表示されます。
- 2) 初期化します。
AT&F&W

OKが表示されます。
- 3) **ATDT117**

(**ATDT117** は電話回線がトーンの場合です。パルスのときは **ATDP117** と入力します。)
 接続が完了すると時報が聞こえてきます。



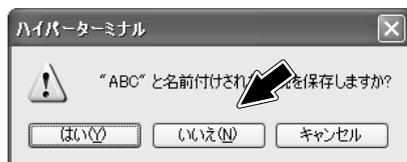
留意事項

- 「BUSY」が表示されたら、別の電話番号にかけてみてください。

⑥ メイン画面のツールバーの  ボタンをクリックしてください。時報への接続が終了します。



-  ボタンで切断できない場合は **+++** と入力すると「OK」が表示されます。続いて**ATH**と入力し を押します。「OK」と表示されると回線が切断できます。
- ⑦ メニューバーの「ファイル」をクリックして「ハイパーターミナルの終了」をクリックしてください。
- ⑧ 「ハイパーターミナル」画面が表示されます。「現在、接続されています。切断してもよろしいですか?」と表示されますので「はい」をクリックしてください。続いて「セッションABCを保存しますか?」と表示されますので「いいえ」をクリックしてください。



「ハイパーターミナル」が終了します。これで、モデムの初期化と動作テストが完了しました。

◇ドライバの削除方法

インターネットにつながらない、詳細情報が開けない場合は、「ドライバ」を削除し、再度インストールを行ってください。

《Windows®Server™2003/XP/2000の場合》

- ① 「スタート」メニューの中の「設定」から「コントロールパネル」をクリックしてください。
- ② 「アプリケーションの追加と削除」(Windows®XPの場合は、「プログラムの追加と削除」)をダブルクリックしてください。



- ③ 「アプリケーションの追加と削除」画面の「現在インストールされているプログラム」より「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」をクリックし、「変更/削除」ボタンをクリックしてください。

- ④ 「現在インストールされているプログラム」より「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」が消えたことをご確認ください。「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」が無くなると本モデムの[PW]ランプは消灯します。



《Windows®Me/98SE の場合》

* パソコンに本モデムの USB ケーブルが接続された状態で行ってください。(WindowsMeの画面で説明しています。Windows98SEをお使いの場合は画面が異なります。)

- ① 「スタート」メニューの中の「設定」から「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」タブの順にクリックしてください。[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]の下の[OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM]の表示をクリックし、「削除」をクリックしてください。
- ② 「スタート」メニューの中の「設定」から「コントロールパネル」→「モデム」をダブルクリックし「モデム」のプロパティ画面の中に「OMRON ME5614U2 FAX DATA MODEM」が表示されている場合は削除してください。



- ③ 「スタート」メニューの中の「検索」から「ファイルやフォルダ」をクリックしてください。「検索」画面の「ファイルまたはフォルダの名前」(Windows98SE ; 「名前」)欄に以下のファイル名を入力してください。「探す場所」欄の▼をクリックし、OSが入っているドライブ(例えばローカルハードドライブ (C))を選択してください。Windows98SE ; 「サブフォルダも探す」にチェックマークをつけてください。
ccport.sys usbser.sys
wdmmdmld.vxd
omronscmdcd98.inf omronscmusb98.inf



- ④ 「検索開始」をクリックして、検索結果で表示されたファイルを削除(ごみ箱に移動)してください。



●用語の解説

パソコン通信の規格、基準、手順が多数存在するのは、パソコン通信の利便性を向上する要望が強く、送信速度、送受信の信頼性向上を追求し、いろいろと工夫をしてきたためです。そのために用途は飛躍的に拡大しましたが、通信手順の種類も増大しました。原理的な区分としては、通信方式として全2重、半2重、同期方式として調歩同期式、非同期式、通信規格としてBELL規格、ITU-T規格、エラー訂正機能としてマイクロコム社開発のMNP規格、ITU-T規格、データ圧縮機能としてマイクロコム社開発のMNP規格、ITU-T規格等があります。この他に通信速度や、電話回線の規格(NTTの仕様)、ヘイズ社開発の制御(AT)コマンド規格等の各種規格、基準があります。これらのことはどんなことなのか説明します。

■通信ソフトマニュアル、パソコン通信局(BBS)の用語説明

- | | |
|------------|--|
| 全二重通信方式 | 電話と同じように送信側がデータを送っているときに、受信側からもデータを送信できる双方向通信方式です。パソコン通信はほとんどこの方式です。 |
| 半二重通信方式 | 送信側がデータを送信しているときには、受信側は受信するだけの交互通信方式。データの送信速度は遅いのですが信頼性は高いので、重要なシステムでは今でも半2重方式が使われています。 |
| 有手順通信方式 | HDLC、BSC等の通信方式。MNPやV.42も有手順の通信方式です。(ただし端末—モデム間は無手順) |
| 無手順通信方式 | データの変換や加工、エラーの訂正を一切しない方式。 |
| 通信速度 ……… | 1秒間に送信するデータのビット数。 |
| データ長 ……… | 半角1文字を表すビット数、海外のネットにアクセスするときは7ビット、漢字を扱うときには8ビットとなります。 |
| パリティ ……… | データの送受信が正しく行われているか、1ビット付加してデータ数の合計が必ず奇数(または偶数)になるようにしてチェックします。 |
| ストップビット …… | 文字の区切りを表すビット数のことです。1文字の伝送データの区切りは必ずストップビットとストップビットにはさまれています、従って1ビット以上で設定する必要があります。 |
| 伝送コード ……… | ホストコンピューターが使用している文字コード。 |
| エコーバック ……… | 送られてきたデータを、送信先にそのまま送り返すことをエコーバックといいます。端末自身、モデム、ホストコンピューター等がエコーバック有無の設定を持ち、入力した文字を、入力した側が確認するために使用されます。一般的には、入力した文字を確認する必要がある時には(ID番号等)ホストコンピューターがエコーバックを行うため、端末、モデムのエコーバック(一般的にはローカルエコーバックと言われる)は不要です。 |

用語の解説

- 改行制御 …………… パソコンやワープロで改行キーまたはキャリッジリターンキーを押したとき、ホストコンピューター側にどのようなコードを送信するかを設定します。また、ホスト側で改行コードを送信したときに通信ソフト側でどのような処理を行うかを設定します。
- 送信区切りコード … パソコン通信のメニュー選択やコマンド入力するときに、入力の確定時入力するコードのことで、一般的にはキャリッジリターンコードになります。
- 入力訂正コード … 間違ったコマンドや番号を入力したとき、訂正するために送るコードのことで、バックスペースコード等が使用されます。
- 漢字コード …………… 文字を送受信するために全ての文字はコード化されています。この種類にもいくつかありますが、ふつうはシフトJISを利用します。
- ファイル転送方法 … データの送受信に用いる転送方式(プロトコル)のことです。
- 処理の中断コード … 通信中に処理を中断するときに用いるコードのことです。

■仕様書、カタログの用語の説明

- モデム …………… Modulator DE Modulatorの頭文字を取ったもので変復調器。
- ホストコンピューター … ネットワークの中心にあって、多数のパソコン(またはワープロ)を管理したり、データの演算やデータのメモリーをする大型の高速コンピューター。
- ネットワーク …… ホストコンピューターを中心にして複数のパソコン(またはワープロ)と接続された通信回線網。
- RS232C …………… EIA(アメリカ電子工業会)が定めたインタフェース規格。パソコンと周辺機器をつなぐインタフェースとして、信号の送受信方法について、コネクタ形状と信号の送受信時の基本的な方法について、規定したものです。
- シリアル(パラレル)転送 … 信号の送受信は1本の線で直列に1010と信号を送る方法と4本(または8本、16本、32本)の線で並列に1010・・・と信号を送る方法があります。直列に信号を送る方法をシリアル転送といいます。直列に送る方が転送時間が長くなりますが、伝送路が低価格で作れます。
- ハンドシェイク …… 信号の送受信をするときに信号のレベル、幅、スタート、ストップ、自分に送られたものなのかの認識、どんな言語かの認識等が一致したとき始めて通信できます。モデムが通信を開始する直前にモデム同士でお互いに通信条件の情報交換を行い条件を合わせることをいいます。
- 同期方式 …………… 送受信間のデータの始まり、終わりのときのタイミングの取り方。
- 調歩同期 …………… 一定の長さのデータの前後にスタートビットとストップビットと呼ばれる同期のためのビットを付けて伝送する方式。
- 同期式 …………… データ信号線の他に同期信号専用の信号線を使い通信する方式。
- NCU …………… Network Control Unit(網制御装置)の略。電話機と同じような機能を持ったもので、パソコンからの指示によって、電話回線にダイヤル信号を送ったり、ダイヤル信号を受けて呼び出し音を鳴らしたりします。

- AA(自動発着信) パソコンからのコマンドにより、自動ダイヤルを行なう方式です。
- MA(手動発信、自動着信) パソコンからのコマンドは受け付けません。電話機で電話をかけて、電話がつながったらスイッチを切替えてデータを送る方式です。
- 通信規格 …………… モデム同士が通信するための変復調方式の規格です。
- BELL規格 …………… ベル社が提唱した通信規格でアメリカ国内で低速の通信に使われています。
- ORGモード …………… ORIGINATEの略で一般的にモデム間の通信は発信側をORGモードとし受信側をANSモードにして行います。送信データの電圧レベル、周波数をORG, ANSに割当し送受信が一本の電話線でできるようにするための方法で、必ず相対していないと通信できません。
- ANSモード …………… ANSWERの略で、前記。
- MNP …………… Microcom Networking Protocolの頭文字を取ったもので米国のモデムメーカーのMicrocom社が提唱した、通信回線上のさまざまな原因により発生する通信エラー(文字化け等)をモデム同士で自動的に検出し、訂正するエラーフリー通信とデータ圧縮を実現するプロトコルです
- ATコマンド …………… 米国のヘイズ社が提唱したモデムの発信、着信を全てパソコンからのコマンド指示によってできるようにしたもので現在、世界で最も普及しているモデムのコマンド体系です、全てのコマンドがATで始まっているのでATコマンドと言われています。パソコンがモデムに送る命令をコマンド、命令に対してモデムからパソコンに返される文字列をリザルトコードと呼びます。
- ITU-T …………… 旧称はCCITTのことです。国際電気通信連合電気通信標準科部門のこと。国連の専門機関の1つであり、電気通信サービスの技術、運用等に関する勧告(規格)の作成を行っている。ファクシミリ、ISDN等通信全般について扱っているが、V.○○というのはモデムに関する勧告になっている。
- V.FC …………… ロックウェル社が独自に開発した最高速度28800bpsまで対応した通信規格です。
- LAP-M …………… Link Access Procedure for Modemの略。MNPと同様、エラーフリーを実現するプロトコル。V.42で使用されます。
- BBS …………… Bulletin Board Systemの略で電子掲示板システムと訳され会員がお知らせの掲示を出したり、何かの質問を寄せたり仲間を募集するメッセージを掲載したりします。
- GIII …………… 電話回線(アナログ式)用のFAX通信手順。国際標準となっており、A4原稿が1分程度で送られます。他にGMというデジタル式の規格もあり、A4原稿を4秒程度で送ることができます。
- V.42bis …………… CCITTで規定されているデータ圧縮の手順です。V.42bisはLAP-Mとの併用を前提に規定されています。最大300%程度の圧縮を行うことができます。

用語の解説

- K56flex …………… K56flexとは送信が最大33.6Kbps、受信が最大56Kbpsでのデータ転送が可能なロックウェル社が開発した独自の通信規格です。他の56Kbpsの規格であるx2、V.90とは互換性がありません。
- V.90 …………… 送信が最大33.6Kbps、受信が最大56Kbpsでのデータ転送が可能な通信規格です。V.90の技術仕様は、1998年2月にITU-T(国際通信規格)によって採択されました。

■ データ通信、FAXモデムの基礎知識

● データ通信の基礎知識

ターミナルモードとは？

ターミナルモードとは、ソフトを使う人とモデムの間で直接会話をする機能です。

モデムはATコマンドという言葉でソフトから命令を受けます。通常は目には見えないところで通信ソフトがダイヤリングや設定を変更するコマンドを発行しています。例えば、通信ソフト上では発信という項目を選択するだけでモデムはダイヤリングをし、相手と接続します。でも実際は通信ソフトがダイヤルコマンドをモデムに送っているのです。

つまり、ATコマンド(ダイヤルコマンドなど)を直接キー入力し、モデムへ与えることのできるモードがターミナルモードです。

ターミナルモードにするには、通信ソフトを起動すると自動的にターミナルモードになるものやメニューから機能を選択するものなど通信ソフトによって様々です。

エラー訂正、データ圧縮とは？

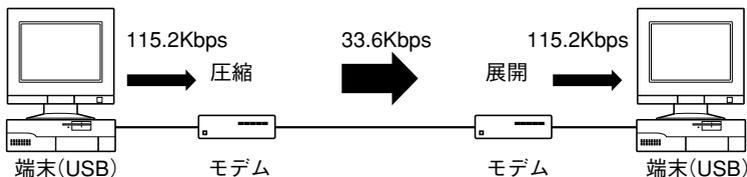
エラー訂正とは、電話回線上の雑音などでデータが壊れてしまうと文字化けがするため、壊れたデータをもう一度送り直して正しい文字を送信する機能です。

データ圧縮とは、送信側モデムで送信データを圧縮し、受信側モデムでデータを復元することにより送信効率をあげることができます。

エラー訂正、データ圧縮の方式には、大きく分けてMNP系とV.42系があります。MNP系は圧縮率最高200%、V.42系は圧縮率最高400%といわれています。データの内容によっては得意不得意があるため、必ずしもV.42系が効率がよいというものではありません。

通信速度と端末速度の関係は？

データ圧縮は本モデムの内部で行われています。データの内容にもよりますが、実際のモデム-モデム間は2~3倍の速度で通信されます。そこで端末-モデム間をモデム-モデム間の2~3倍の通信速度を設定しておく必要があるのです。このことによりデータの圧縮効果があらわれます。端末-モデム間の通信速度を高速に設定しても、ある設定をしていないとデータ通信に入ったときに端末-モデム間の速度が通信速度と同じ速度まで下がってしまいます。ある設定とは、端末速度固定モード。データ圧縮と端末速度固定は常に組み合わせて使います。



フロー制御とは？

データ圧縮を使っているときのように、モデム-モデム間と端末-モデム間の処理速度が異なる場合には、処理速度の速い側が遅い側に合わせる必要があります。処理速度の遅い側では、処理が間に合わなくなりそうになると、相手に対して「一時停止」を要求します。処理に余裕ができた時点で「再開」を要求します。このようにデータの流れ（フロー）を制御するので、フロー制御と呼ばれます。

モデムでは、殆どの場合RS/CSフロー制御が使用されます。

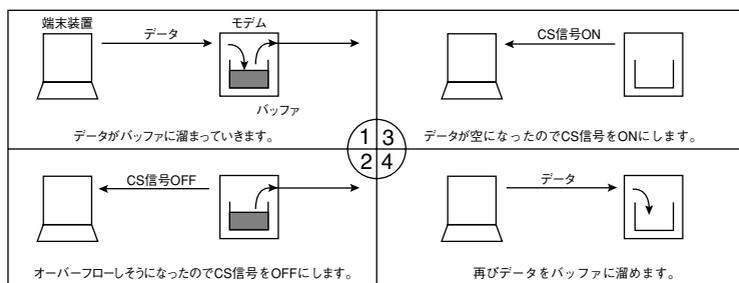
● XON/XOFF フロー制御

パソコン通信ソフトでおなじみのフロー制御方式です。XON/XOFFフロー制御方式に設定されたモデムはバッファがオーバーフローしそうになったらXOFFコードを送出しバッファが空になったらXONを送出します。

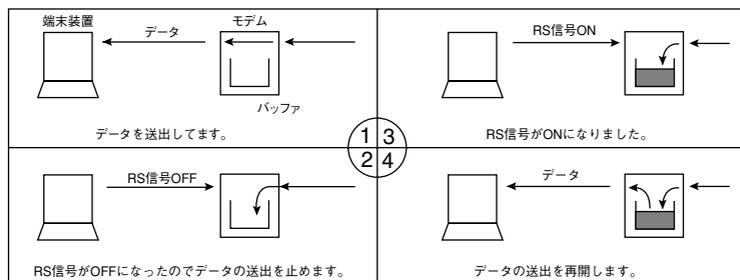
● RS/CS フロー制御

XON/XOFFフロー制御方式ではバイナリーデータや漢字テキストデータを送出すると誤動作や、データ抜けがおこります。

これらの問題を解決したフロー方式がRS/CSフロー制御方式です。RS-232Cインターフェイスの信号のRS信号とCS信号を使ってフロー制御を行う方式です。RS/CSフロー制御方式に設定したモデムはバッファがオーバーフローしそうになったらCS信号をOFFにします。そして再び、バッファが空になったらONにします。次の図を参照してください。



また、モデムはRS信号がOFFになったらデータの送出を止め、RS信号がONになったらデータの送出を再開します。次の図を参照してください。



● FAX モデムの基礎知識

クラス1、クラス2とは？

クラス1とクラス2とは、FAXモデム通信の規格であり、FAXコマンドです。データ通信では、ATコマンドを使ってモデムを操作するように、FAXモデムはFAXコマンドを使って操作します。FAXソフトウェアが私たちの目に見えないところでFAXコマンドを使ってFAXモデムを操作しているのです。実際の操作は、FAXコマンド上の「送信」とか「受信」というような項目選択するだけです。

この二つのコマンドは互換性はありません。そのためFAXソフトを購入するときはクラス1かクラス2かご確認ください。

クラス1とクラス2の性能の違いは？

通信速度や画質の選択(ファイン/ノーマル)などのやりとりをFAXソフト(ソフトウェア)で行うものがクラス1、FAXモデム(ハードウェア)で行うものがクラス2です。

クラス2の方がパソコンのCPUの負荷が軽くなりますが、どちらも通信時間や画質の鮮明さなどに違いはありません。

もっとくわしく理解したいという方は、市販の雑誌等をご覧ください。

付 録

■仕様

●NCU仕様

項 目	機 器 仕 様
通信回線数	1 回線
適用回線	電話回線
NCU 形式	AA
ダイヤル形式	ダイヤルパルス式 (10/20pps) プッシュ式 (トーン式)
NCU 制御コマンド	AT コマンド準拠 (データ通信用) FAX クラス 1 コマンド (EIA-578)
回線モニタ	本体内蔵のスピーカによる

●データ仕様

項 目	機 器 仕 様
DTE インタフェース	USB 1.1
通信方式	全二重
同期方式	調歩同期式 (非同期式)
通信速度	56000/53300/50667/49333/46667/45333/42667/ 41333/38667/37333/34667/33333/30667/29333/ 26400/24000/21600/19200/16800/14400/ 12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21/ BELL 212A/103
端末ーモデム間速度	115200/57600/38400/19200/12000/9600/7200/4800/ 2400/1200/300bps
動作モード	ORG/ANS モード
送信レベル	- 10dBm ~ - 15dBm
受信レベル	- 10dBm ~ - 43dBm
エラー訂正機能	MNP クラス 4/10 準拠、ITU-T V.42 準拠
データ圧縮機能	MNP クラス 5 準拠、ITU-T V.42bis 準拠

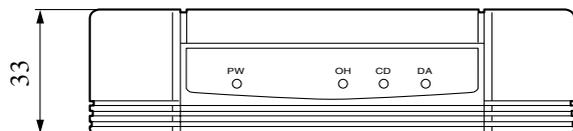
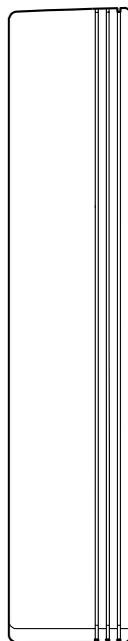
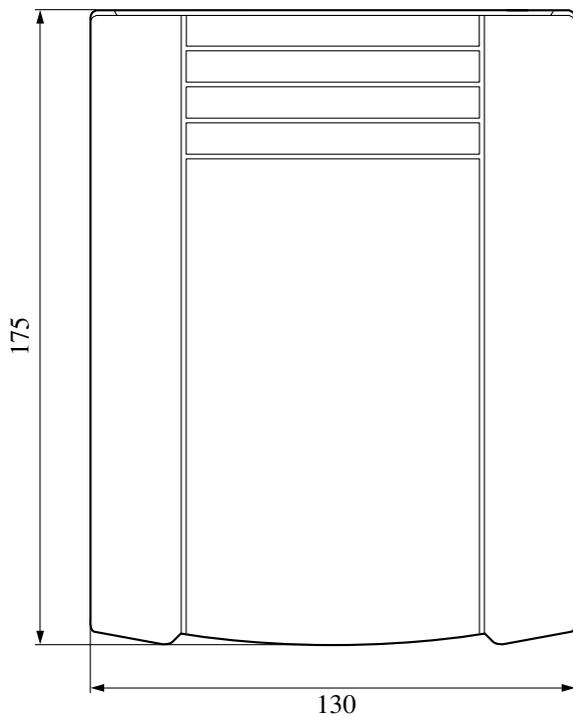
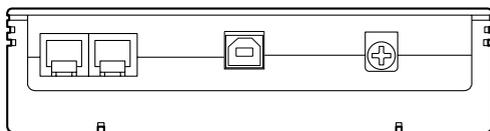
● FAX仕様

項 目	機 器 仕 様
伝送制御手順	GIII
通信方式	半二重
同期方式	調歩同期式（非同期式）
通信速度	14400/12000/ 9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格	ITU-T V.21ch2/ V.27ter/ V.29/ V.17

● 一般仕様

項 目	機 器 仕 様
消費電力	最大 約0.8VA（USB インタフェースより供給）
寸法／質量	幅：130mm、奥行：175mm、高さ：33mm、質量：300g 以下
環境条件	温度：0～40℃、湿度：25～85%（結露なきこと）
電波障害防止	VCCI クラス B

■外觀寸法図



■修理のご案内

修理を希望される場合の依頼方法は2つあります。

1. お買い上げ店に持ち込んでいただく方法
2. 商品を当社周辺機器修理センタへ直送していただく方法
(出張修理サービスは行っておりません。ご了承ください。)

<周辺機器修理センタへ直送していただく方法>

1. 修理依頼手順

- ① 「修理依頼票」をコピーしてください。
- ② 「修理依頼票」に必要事項をすべて記入してください。
故障内容や発生頻度などを詳しく記入してください。
- ③ 製造番号／発送日／発送時の送り状No.を控えとして以下に記入してください。
修理品の問い合わせ時に必要です。

製造番号	
発送日	年 月 日
発送業者	
送り状 No.	

- ④ 「修理依頼票」を修理品に同梱し、下記宛先に発送してください。
(送料はお客様負担にてお願いします。)

〒491-0914
愛知県一宮市花池 4-13-11
株式会社エイスタッフ内
オムロン周辺機器修理センタ宛
TEL: 03-3436-7213

2. 修理期間

おおむね1～2週間

*故障状況によっては、1ヶ月以上要する場合がありますのでご了承ください。

3. 修理代金お支払い方法(有償修理の場合)

有償での修理代金は、代金引換または銀行振込にてお支払いください。

- 代金引換 ヤマト運輸株式会社のコレクトサービスを利用します。
- 先行銀行振込 振り込み確認後、修理品を発送させていただきます。

修理のご案内

■修理依頼票 ME5614U2

●修理依頼時、この依頼票に必要な事項をすべて記入の上、製品に同梱してお送りください。

依頼日	平成 年 月 日()		
フリガナ お名前	-----		印
ご住所	〒		
会社名 部署名			
電話番号		携帯電話番号	
FAX番号			
E-Mail			
製造番号			
保証書	<input type="checkbox"/> 有り 保証書を同梱ください。 <input type="checkbox"/> 無し 保証期間内でも有償となります。		
故障状況	発生頻度	<input type="checkbox"/> 常時発生 <input type="checkbox"/> 時々発生(具体的に...例：週1回) ()	
	症状とご要望 ※故障内容を詳しく記入してください。		
お支払い方法 (有償の場合)	<input type="checkbox"/> 代金引換 <input type="checkbox"/> 銀行振込(完了品の発送はお振込み確認後となります。)		

お問い合わせせ票

Fax No.:03-3436-7059
オムロンカスタマサポートセンター行

お問い合わせせ票

* お客様がカスタマサポートセンターにお問い合わせいただくときに
本票をご利用ください。

* ご質問の前に「お困りのときには」を一度ご参照ください。

お名前		メールアドレス	
電話番号		ご購入日/台数	年 月 日 / 台
ご住所	〒		* 本製品の底面に貼ってある ラベルの製造番号を記入下さい
型式名	ME5614U2	製造番号*	
パソコン	メーカー名: 型式名:		
ご使用 OS およびバージョン <例: Windows®2000 >			
プロバイダ	<input type="checkbox"/> 未加入	<input type="checkbox"/> 加入済 (プロバイダ名:)	
具体的な内容<エラーメッセージなど; 詳しく症状をお書きください>			

FAX/DATA USBモデム

ME5614U2

取扱説明書

OMRON

*認証番号は本体底面ラベルを参照
ください。

オムロン株式会社 周辺機器事業部

2005年11月発行

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10

TEL: 03-3436-7213

技術的な  お問い合わせは周辺機器カスタマサポートセンタまで。

オムロン株式会社

周辺機器カスタマサポートセンタ

TEL:  0120-77-4717 (携帯電話/PHSからもご利用いただけます)

FAX: 03-3436-7059

メールアドレス: omron_support@omron.co.jp

受付時間: 月曜日～土曜日 9:00～17:30 (12:00～13:00を除く)

* 祝祭日、当社の休日を除く

住所: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10

修理  お問い合わせは周辺機器修理センタまで。

オムロン株式会社

周辺機器修理センタ

TEL: 03-3436-7213

FAX: 03-3436-7195

メールアドレス: omron_syuri@omron.co.jp

受付時間: 月曜日～金曜日 9:30～17:00 (12:00～13:00を除く)

* 祝祭日、当社の休日を除く

住所: 〒491-0914 愛知県一宮市花池4-13-11

株式会社エイスタッフ内 オムロン周辺機器修理センタ

通信販売  お問い合わせはオムロンダイレクトまで。

オムロン株式会社

周辺機器オムロンダイレクト

TEL: 03-3436-7212

FAX: 03-3436-7195

メールアドレス: omrondirect@omron.co.jp

受付時間: 月曜日～金曜日 9:30～17:00 (12:00～13:00を除く)

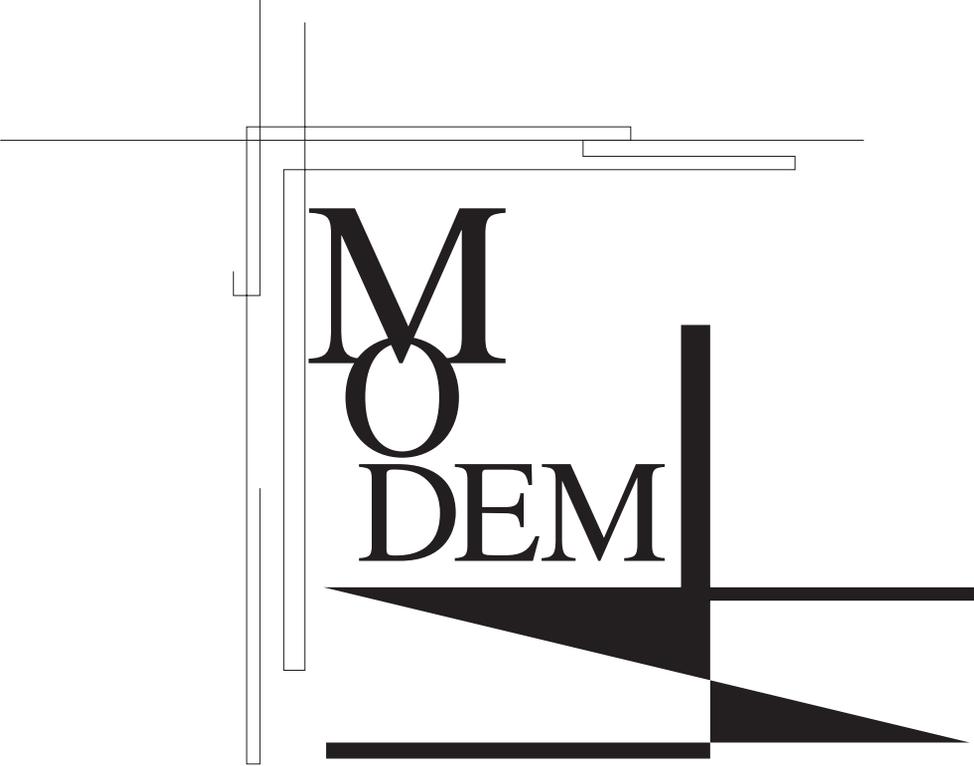
* 祝祭日、当社の休日を除く

住所: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10

オムロン周辺機器商品はインターネット  でもお買い求めいただけます。

 ホームページアドレス <http://www.omron.co.jp/ped-j/direct/index.html>

* 無断複写・転載を禁止します。 * 乱丁本・落丁本はお取り替えいたします。



MO
DEM